



木口×40

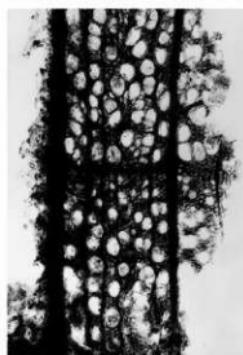


柾目×40



板目×40

Nb-1-2 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



木口×40

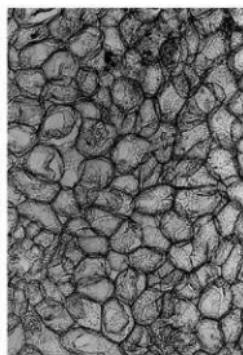


柾目×40

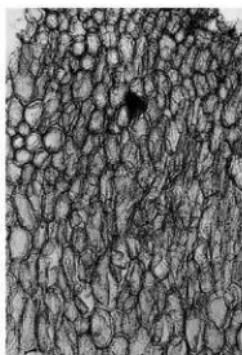


板目×40

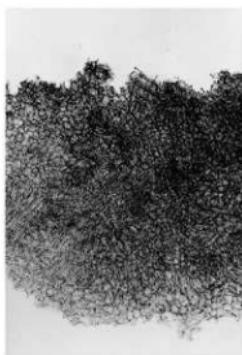
Nb-2 ブナ科ブナ属



横断面×40



放射断面×



接線断面×40

Nb-3 ウリ科ユウガオ属



木口×40

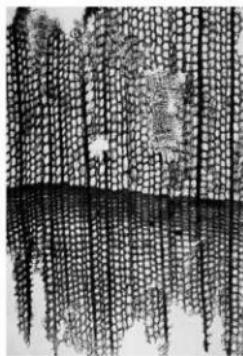


径目×40



板目×40

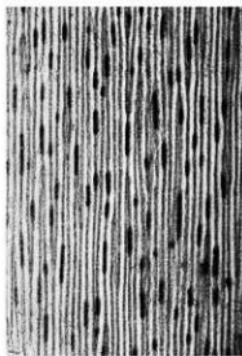
Nb-4 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



木口×40



径目×100

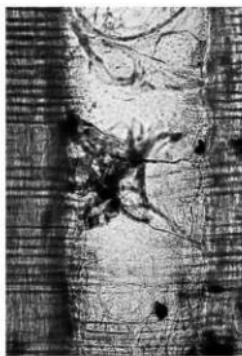


板目×40

Nb-5 ヒノキ科アスナロ属



木口×40



径目×100



板目×40

Nb-6 ブナ科クリ属クリ

第4節 木製品の樹種同定結果(2)

高橋利彦(木工舎「ゆい」)

1. 試料

試料は10点(Nb. 1~10)で、中世(11~16世紀)または中世の可能性が高いとされる6基の井戸跡から検出された木製品・加工材である(表1)。Nb. 7を除く9点は乾燥状態にあった。

遺跡は青森平野の東北端、賀船川の支流の扇状地性低湿地上(標高約30~40m)に立地し、今回の調査区の標高は約30~33mである。遺跡からは縄文時代から近世(近代)までの遺構・遺物が検出されている。

2. 方法

プレパラートの作製には、筆者が遺物から採取した材片を用いた。材片は少なくとも足かけ2年分を含み、かつできるだけ少ない量となるように努めながら遺物の目立たない場所を選び採取した。採取した材片は湯煎ののち放置し吸水させた。剃刀の刃を用い、試料の木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)3面の徒手切片を作製、これをガムクローラルで封入したプレパラートを生物顕微鏡で観察・同定した。併せて各分類群1点の顕微鏡写真図版を作成した(図版1)が、乾燥による変形・劣化が進んでいるため図版の仕上がりはよくないことをお断りしておく。作製したプレパラートはすべて木工舎「ゆい」に保管されている。

3. 結果

試料は以下の3分類群に同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、学名と配列は「日本の野生植物 木本I」(佐竹ほか 1989)にしたがい、県内での自然分布については「北本州産高等植物チェックリスト」(上野 1991)を参照した。また、一般的な性質などについては「木の事典 第2・7・16巻」(平井 1979、1980、1982)も参考にした。

・アスナロ(*Thujopsis dolabrata*) ヒノキ科 Nb. 1, 2, 3, 4, 8, 10

早材部から晚材部への移行は緩やかで、晚材部の幅は狭く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はあるが樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみとなる。分野壁孔は小型のヒノキ型(Cupressoid)~スギ型(Taxodioid)で分野あたり1~6個。放射組織は単列、1~15細胞高であるが5細胞高程度までの低いものが目立つ。

アスナロは本州・四国・九州に自生する日本特産の常緑高木で時に植栽される。北海道(渡島半島以南)・本州北部には変種ヒノキアスナロ(ヒバ)(*T. dolabrata* var. *hondai*)がある。材はやや軽軟で保存性は高い。建築・土木・家具・器具材など各種の用途が知られている。

・ヤナギ属(*Salix* sp.) ヤナギ科 Nb. 6

散孔材で、管孔は単独および2~3個が複合する。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では網目状となる。放射組織は異性、単列、1~15細胞高。変形・劣化が著しい。

ヤナギ属は国内に約35種が知られ、種間雑種も多く分類の困難な群である。属としては全国に分布し、時に植栽される落葉低木または高木である。県内にはヤマネコヤナギ（バッコヤナギ）（*Salix bakkō*）・イヌコリヤナギ（*S. integra*）など10種ほどが自生する。材は一般に軽軟で、割裂性が大きく耐朽性は低い。大径木が少ないため小細工物にする程度で、とくに重要な用途は知られていない。

・ブナ属（*Fagus* sp.）ブナ科 № 5, 7, 9

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2~3個が複合、横断面では多角形、分布密度は高い。道管はほぼ単穿孔をもつが、晩材部では段（bar）数が10前後の段階穿孔をもつものもある。壁孔は大型で対列状・交互状に配列、放射組織との間では網目状となる。放射組織は同性・異性、単列、数細胞高のものから複合組織まである。柔組織は短接線状、散在状。年輪界は明瞭。

ブナ属はブナ（*Fagus crenata*）とイヌブナ（*F. japonica*）の2種があるが、県内にはブナのみが自生する。材はやや重硬で、強度は大きいが加工はそれほど困難ではなく、耐朽性は低い。木地・器具・家具・薪炭材などの用途があったが、最近では各種の用途に用いられている。

以上の同定結果を検出遺構や推定されている用途などとともに一覧表で示す（表1）。

表1 米山（2）遺跡出土材の樹種

試料番号	検出遺構など	用途	推定年代*	分類群	図版
1	第32号井戸跡1層	方形井戸枠の隅柱	中世 ^a	アスナロ	68- 4
2	第32号井戸跡1層	方形井戸枠の横木	中世 ^a	アスナロ	52
3	第32号井戸跡1層	方形井戸枠の縦板	中世 ^a	アスナロ	52
4	第2号井戸跡	井戸枠隅柱の櫻	中世 ^b	アスナロ	56- 8
5	第4号井戸跡4層	不明（棒状）	中世 ^c	ブナ属	62- 6
6	第4号井戸跡4層	不明（釣状）	中世 ^c	ヤナギ属	62- 7
7	第5号井戸跡底面	漆塗椀	中世の可能性	ブナ属	62- 12
8	第4号井戸跡4層	方形曲物底板	中世 ^c	アスナロ	62- 8
9	第41号井戸跡底面	加工材？	中世の可能性	ブナ属	55
10	第26号井戸跡覆土	下駄	中世 ^d	アスナロ	66- 10

* : a ; 1300年前後 [井戸枠縦板の年輪年代（本書第5章第5節）による] b ; 1020~1190年 [井戸枠材の¹⁴C年代測定（AMS法、以下同様）による] c ; 1270~1520年以前（覆土出土部材の¹⁴C年代測定による） d ; 1150~1270年頃（試料下位から出土した部材の¹⁴C年代測定による） c ~ d の測定結果は本書第5章第1節（2）参照

4. 考察

上記のように、試料の推定年代値には最大で5世紀ほどの差がある上に一部不確定のものも含まれているが、以下の議論では一括して中世のものとして扱うこととする。

井戸枠の部材は2遺構から検出された4点(Nb.1~4)が検討されたが、いずれもアスナロに同定された。異なる部材のいずれもがアスナロであったことから、少なくとも第32号井戸跡では井戸枠材としてアスナロを主に用いていたようである。先行調査で検出された第7号井戸跡出土の井戸枠部材1点もアスナロに同定されている¹⁾(パリノ・サーヴェイ株式会社 2003)。また、本遺跡からは陸奥湾を隔て、北方40kmほどに位置する川内町高野川(2)遺跡の室町時代とされる1号井戸の井戸枠部材(隅柱・横浅・側板)5点もすべてアスナロに同定されている(鷲倉 1993)。こうした点から他の井戸でも同様の傾向にあった可能性は高そうである。加工のしやすさとともに耐水性に優れることから用いられたものであろう。あわせて、材料の入手しやすさもあったよう思う。

漆塗椀(Nb.7)はブナ属製であった。試料と近い時期の類例を著者は知らないが、南東12kmほどに位置する市内野木遺跡出土の平安時代とされる椀物の用材はケヤキとハリギリ²⁾でブナ属は認められていない(能城・鈴木 2000)。一方、浪岡町浪岡城跡出土の中~近世(15~16世紀)とされる漆器³⁾は3点ともアスナロ⁴⁾とされている(浪岡町教育委員会 1986)。こうした違いが時代や遺跡・遺構あるいは遺物の性格によるものなのかは例数が限られていることもあり判断できない。ちなみに、岩手県内の遺跡からの出土漆器では、ブナ属製品は圧倒的多数を占めるケヤキ製の1/3弱にすぎない⁵⁾ものの、平安時代から近~現代まで連続と用いられているように見えるとされている(高橋 2003)。今後はこうした観点からの検討も必要であろう。

方形曲物⁶⁾の底板とされる試料(Nb.8)はアスナロに同定された。試料の残存長・幅・厚さはそれぞれ約34・15・0.7cmを測り、周縁部には側板を留めたとみられる「樺皮」も認められる。試料の復元品とごく近い形状を示していると思われる「折敷」のほぼ完形品⁷⁾が浪岡城跡試料の中にあり、同じくアスナロ⁸⁾が用いられている(浪岡町教育委員会 1986)。また、浪岡城跡出土の「折敷」の中にはアスナロ⁹⁾製の32.7×8.3×0.8cmと31.5×7.1×0.8cmの2点の破損品もあるが、これらには試料と同様に転用されたとみられる刃物痕が多数認められている。一方、現代の金木町・川内町の曲物とともにヒバが用いられているという(岩井 1994)。現代まで受け継がれてきた用材選択の一例といえよう。

下駄(Nb.10)もアスナロ製であった。一本作りの「連齒下駄」であり、木取りは「追い粧」であった。乾燥状態にあるため現状よりは若干大きかったはずであるが、元々それほど高さのある下駄ではなかったようである。井戸枠で触れた材質に加えて、軽さと軟らかさも選択の理由になったのだろう。浪岡城跡試料の中にもアスナロ製の下駄¹⁰⁾とされる遺物2点があるが、こちらは差歎下駄の台とみられている¹¹⁾(浪岡町教育委員会 1986)。

<注>

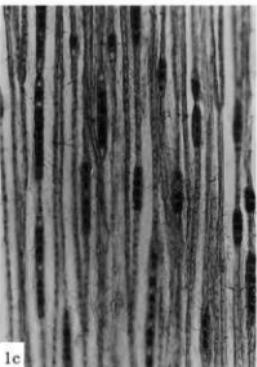
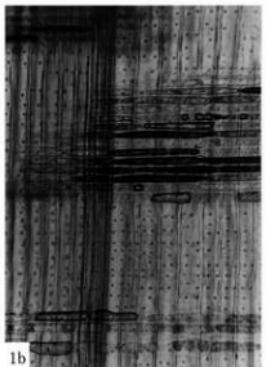
* 1 : この試料にはホゾ穴らしきものが認められる。旧河川跡から検出されたホゾ穴のある板材1点も井戸枠部材とされ、やはりアスナロに同定されている(パリノ・サーヴェイ株式会社 2003)。

* 2 : 16点のうちハリギリが12点、ケヤキが4点である。手元の資料で判断する限り、検討された

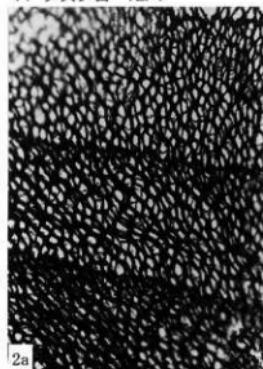
- 試料はいずれも「素木」の「木地椀」で塗り物は含まれていないようである。
- * 3 : 椀2点と椀または高坏1点。
 - * 4 : 原表記はアスナロヒバ。
 - * 5 : 検討された136点の大半は椀で、ケヤキが77%を占め、ブナ属は21%でこれに次ぐ。
 - * 6 : 狹義の曲物は底面形が円または橢円であり、試料のような角形のものは通常「折敷」と呼ばれている。試料は破損していない側の2隅が三角形状に切り落とされていることから、「角切折敷」または「足打折敷」と呼ばれる容器（岩井 1994）の底板のようである。
 - * 7 : 角切り正方形（31.8×31.3×0.6cm）の底板に、縁から1.5cmほどのところに高さ2cm弱の側板を回し、「樺皮」で綴じ合わせたものである。
 - * 8 : ほかにスギ製の歯1点もあげられている。報告者はこれを差歯の一部とみなしているが、図示されている木目から判断すると連歯下駄の歯で、「高下駄（足駄）」であったようである。

引用文献

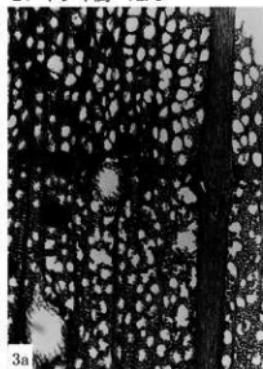
- 平井信二 1979 「木の事典 第2巻」、かなえ書房。
- 平井信二 1980 「木の事典 第7巻」、かなえ書房。
- 平井信二 1982 「木の事典 第16巻」、かなえ書房。
- 岩井宏實 1994 「ものと人間の文化史 75 曲物」、法政大学出版局。
- 浪岡町教育委員会 1986 木製品（木器）等、「浪岡町埋蔵文化財緊急発掘調査報告書第3集 浪岡跡 - 主要地方道青森浪岡線特殊改良工事に伴う発掘調査-」、20-32、青森県土木部・浪岡町・浪岡町教育委員会。
- 能城修一・鈴木三男 2000 青森県野木遺跡出土木材の樹種、「青森県埋蔵文化財調査報告書第281集 野木遺跡III - 青森中核工業団地整備事業に伴う発掘調査報告-（第6分冊）」、21-34、青森県教育委員会。
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2003 米山（2）遺跡から出土した木材の樹種、「青森県埋蔵文化財調査報告書第344集 宮田館遺跡II・米山（2）遺跡II - 青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-」、99-101、青森県教育委員会。
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）1989 「日本の野生植物 木本I」、平凡社。
- 嶋倉巳三郎 1993 高野川（2）遺跡出土加工木の樹種、「青森県埋蔵文化財調査報告書第153集 高野川（2）遺跡発掘調査報告書 - 県営農免農道整備事業（高野川地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書-」、42、青森県教育委員会。
- 高橋利彦 2003 岩手県内の遺跡から出土した木質遺物の樹種I - 下駄と漆器-、「岩手考古学」、第15号、39-45。
- 上野雄規（編） 1991 「北本州産高等植物チェックリスト」、東北植物研究会。



1. アスナロ No. 4



2. ヤナギ属 No. 6



3. ブナ属 No. 9

a : 木口 $\times 40$ b : 横目 $\times 100$ c : 板目 $\times 100$
樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ、横目では左から右。

第5節 米山（2）遺跡出土井戸枠の年輪年代

光谷拓実（独立行政法人 奈良文化財研究所）

米山（2）遺跡の発掘調査では、ヒバ材の井戸枠を使った中世の井戸跡が発見された。このたび、これらのうち、2基（SE23、SE32）の井戸に使われていた井戸枠のなかから、年輪が約100層以上あって年輪年代法の調査対象となり得るものSE23から1点、SE32から10点を選定し、年代測定を実施した。以下に、その結果の概略を報告する。

【方法】

青森県埋蔵文化財調査センターから当研究室に搬送されてきた11点の井戸枠の樹種は、すべてヒバ材であった。11点のなかで、樹皮や面皮のあるもので、伐採年代が求められる形状のもの（Aタイプ）は7点、辺材が一部でも残っているもので伐採年代に近い年代が求められる形状のもの（Bタイプ）は2点、あとは心材だけのもので年輪年代は伐採年代よりかなり古い年代しか求められない形状のもの（Cタイプ）が2点であった。

年輪幅の計測は、専用の年輪読取器を使って、木口面や杠目面から10ミクロン単位で読み取った。各井戸枠から計測収集した年輪幅の計測値（年輪データ）は、あらかじめ作成しているヒバの暦年標準パターン（745年～1329年）との照合に備えた。コンピュータによる暦年標準パターンとの照合は、時系列解析に用いられる相関分析手法によった。¹⁾

【結果】

11点の井戸枠の計測年輪数や、暦年標準パターンとの照合によって得られた年輪年代は表-1に示したとおりである。計測年輪数は、一応の目安としている100層より多いものは10点、残る1点だけが100層以下の99層であった。

暦年標準パターンとの照合結果は、11点のなかで9点において成功した（№1、2、4、5、6、8、9、10、11）。あの2点については、年輪年代の確定した井戸枠の年輪データと個別に照合した結果、№7は年代の確定した№2との照合において高いt値（t=7.9）が得られたので、№2の年輪年代から年代付けをおこなって№2の年輪年代を確定した。他の1点（№3）については、こうした一連の照合作業を通じても、年輪年代を確定することはできなかった。

SE23の築造年代： この井戸の築造年代は、Cタイプで得られた年輪年代：1271年をもとにすると、心材の一部とこれに続く辺材部が削除されていたので、この部分の年輪を加算すると少なくとも1300年代の前半頃が考えられる。

SE32の築造年代： Aタイプのなかの年輪年代は、№4と№8が1304年、№5、№6、№7の3点が1305年、№11が1355年、№10が1469年となり、それぞれ伐採年代の異なる年代が得られた。この結果を額面どおりに考えてみると、SE32の築造は1304年～1305年直後、ついで1355年頃にこの井戸の補修が一部おこなれ、最終的に1469年頃に最後の補修がおこなわれていたことが推察される。これらの年輪年代から、この井戸は存続期間が150年間以上の長きにわたって、大切に補修の手が加えられ、使われ続けていたことが読み取れる。

◆参考文献 1) 田中琢、光谷拓実、佐藤忠信 年輪に歴史を読む－日本における古年輪学の成立－、奈良国立文化財研究所学報第48、同朋舎出版、1990

米山(2)遺跡年輪年代測定結果

No.	種類	資料取上№.	(年輪数)	年輪年代	t値	辺材	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	A.D.
1	井戸枠部材(板)(SE23)	一括	(176+8)	1271	4.8	C	1088	1200	1271					
2	井戸枠の繊板(SE32)	W-4	(190+27)	1440	7.0	B	1224	1300	1440					
3	井戸枠の繊板(〃)	W-19	(178)	—	—	C	—	—	—	—	—	—	—	—
4	井戸枠の繊板(〃)	W-21	(158)	1304	5.4	A	1147	1200	1304					
5	井戸枠の繊板(〃)	W-34	(158)	1305	6.7	A	1148	1200	1305					
6	井戸枠の繊板(〃)	W-49	(210)	1305	5.7	A	1096	1200	1305					
7	井戸枠の繊板(〃)	W-5	(210)	1305	7.9(: 2)	A	1096	1200	1305					
8	井戸枠の繊板(〃)	W-53	(158)	1304	6.3	A	1147	1200	1304					
9	井戸枠の繊板(〃)	W-68	(176)	1446	7.0	B	1271	1300	1446					
10	井戸枠の繊板(〃)	一括	(123)	1469	4.6	A	1347	1200	1347	1469				
11	井戸枠の繊板(〃)	一括	(99)	1355	5.2	A	1257	1200	1300	1400	1500	1500	1500	A.D.

No.2~11の出土位置は図51・52参照

第6節 土器棺墓の土壤分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

米山(2)遺跡は、東岳山麓の丘陵から下る扇状地に立地し、縄文時代後期と中世を主体とする遺跡である。今回の発掘調査により、縄文時代では住居跡や土器棺墓などが検出され、集落が中期後葉から後期後葉まで継続することが明らかとなった。また、中世では竪穴遺構や多数の柱穴が確認されている。今回は、土器棺墓内の土壤分析を実施し、内容物に関する情報を得る。

1. 試料

試料は、土器棺墓(SK70)の埋設土器内から採取された試料11点と、比較試料として採取された基本土層(第Ⅲ層)の計12点である。遺構内から採取された土壤のうち、1、10、11の3試料は深鉢形土器Aから採取されたもの、残りの8点は、壺形土器から採取されたものである。

2. 分析方法

リン酸は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法、腐植はチューリン法で実施する(土壤標準分析・測定法委員会、1986)。以下に各項目の具体的な操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉碎して2.00mmの篩を通過させる(風乾細土試料)。風乾細土試料の水分を加熱減量法(105°C、5時間)により測定する。風乾細土試料の一部を粉碎し、0.5mmのふるいを全通過させる(微粉碎試料)。

リン酸分析は、風乾細土試料2.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸(P₂O₅)濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量(P₂O₅mg/g)を求める。

腐植含量は、微粉碎試料0.100~0.500gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200°Cの砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量(O₂g C/乾土%)を求める。これに1.724を乗じて腐植含量(%)を算出する。

3. 結果

結果を表1、図1に示す。比較試料とした基本土層のⅢ層は、腐植0.7%、リン酸1.0mg/gで分析した12点の中で最も低い値を示す。深鉢形土器Aは、リン酸が約2~3mg/g、腐植が約2~3%を示す。両者の相関は極めて高く、0.97である。一方、壺形土器はリン酸が約3~5.5mg/g、腐植が3~5.5%を示す。両者の相関は低く、-0.19である。

4. 考察

今回の分析結果をみると、深鉢形土器Aと壺形土器では、それぞれの傾向が大きく異なる。深鉢形土器Aは、壺形土器に比べて腐植、リン酸とも低い。また、腐植とリン酸の相関が非常に高いが、分

表1. SK70のリン酸・腐植分析結果

試料	土性	土色	腐植 (%)	リン酸 (mg/g)	
1 CL	10YR2/2	黒褐	3.15	2.92	
2 LIC	10YR2/2	黒褐	4.62	5.30	
3 LIC	10YR2/2	黒褐	5.40	4.43	
4 LIC	10YR2/2	黒褐	4.83	3.15	
5 CL	10YR2/2	黒褐	5.43	4.20	
6 CL	10YR2/2	黒褐	4.03	4.20	
7 CL	10YR2/2	黒褐	5.60	4.56	
8 CL	10YR2/1	黒	5.97	3.58	
9 CL	10YR2/2	黒褐	5.16	4.51	
10 LIC	10YR3/2	黒褐	2.15	2.35	
11 LIC	10YR3/2	黒褐	1.85	1.90	
比較	SC	10YR4/4	褐	0.70	1.02

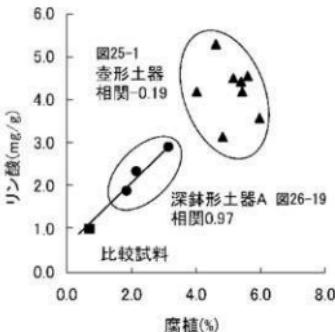
土色は新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修、1967)による。

土性は土壤調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編、1984)による。

CL: 塗塗土(粘土25~25%, シルト20~45%, 砂3~65%)

LIC: 軽塗土(粘土25~45%, シルト0~45%, 砂10~55%)

SC: 砂質埴土(粘土25~45%, シルト0~20%, 砂55~75%)



第7節 遺物に付着した赤色顔料について

柴 正敏 (弘前大学理工学部地球環境学科)

平成17年度の調査で出土した土器棺の破片2試料（試料SK-70及び試料SK-70, P-79, 4層）及び円礫（円磨礫）1試料（試料 河川7, S-15）に付着する赤色顔料の原料について検討した。

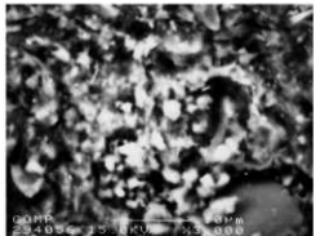
各試料の赤色部を一部採取し、カーボンテープにて試料筒に固定し、炭素蒸着を施した後、電子プローブマイクロアナライザー（以下EPMA）を用いて定性分析及び反射電子像観察を行った。EPMAの分析条件は、加速電圧15 kV、照射電流30ナノアンペア、解析結晶はLED2, TAP, PET及びLIFを用い、ホウ素からウランまでの元素を同定できる条件を適用した。

定性分析の結果、ケイ酸塩鉱物由来のケイ素、アルミニウム、ナトリウム、カリウムのほか鉄の高いピークが確認できる。しかし、水銀やイオウのピークは確認できなかった。

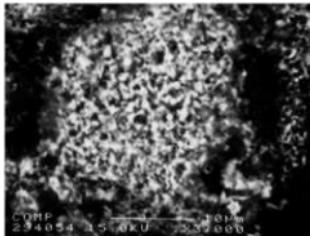
反射電子像（組成像）によれば、赤色部は径数マイクロメーターの粒子が濃集している。

これらの観察結果を総合すると、赤色顔料は、3試料とも、鉄の酸化物（主に赤鉄鉱）と考えられ、水銀朱（HgS）の可能性は低い。

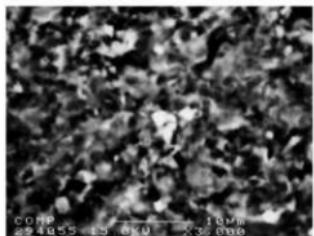
試料名	種類	出土位置	図版
SK-70	壺形土器（彩色あり）	土器棺墓SK-70	図25-1
SK-70 P-79	"	"	"
河川7 S-15	台石	第7号旧河川跡	図101-25



SK70



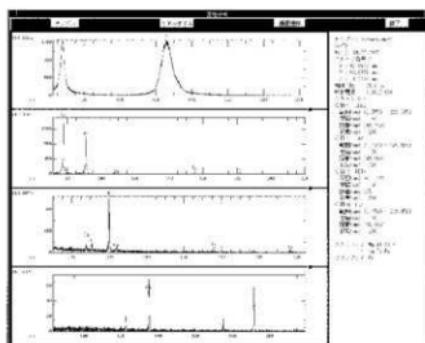
河川7 S-15



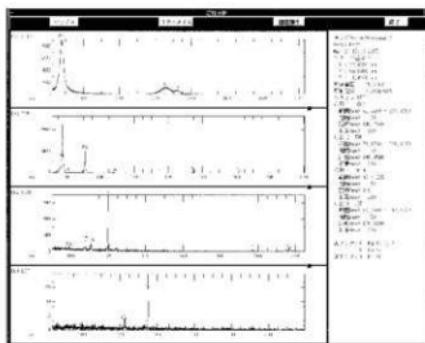
SK70 P-79

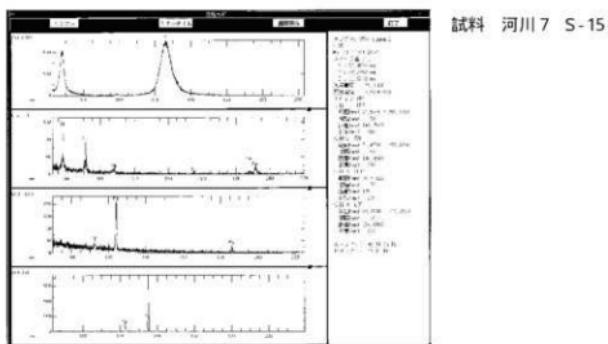
* 反射電子像はキャプションのサイズの画像を67%縮小して掲載した。

試料 SK70



試料 SK70 P-79





第6章 調査の成果

第1節 縄文時代について

今回の調査区からは、竪穴住居跡8軒、土器棺墓1基、炉跡1基、土坑4基(48号・49号・52号・71号)、河川跡4箇所(2号・3号・7号・8号)を検出した。

竪穴住居跡は、大きく3期に区分される。

中期後葉(最花式期) 3軒(1号・5号・6号)

後期初頭~前葉(十腰内I式期) 2軒(7号・8号)

後期中葉(十腰内III式~IV式期) 3軒(2号・3号・4号)

中期後葉の住居跡は、いずれも石囲炉をもつもので、1号・6号は複合的な炉の形態を特徴とする複式炉の影響を受け、石囲炉の位置が壁際に偏在する。6号は、複式炉のタイプによく見られる石囲炉の内側に土器片を敷いた炉である。5号は、1号・6号とほぼ同時期の最花式の住居跡であるが、壁際に炉を偏在せず、単体として、石囲炉を設けている。この3軒の住居跡群は、調査区西側から検出され、ひとつのグループをなしていた可能性が高い。

後期初頭~前葉の十腰内I式期の住居跡は、共に地床炉で、供伴する遺物は少ない。この2軒の距離は100mと離れている。また、8号住居跡は、時期を同じく(十腰内I式)する土器棺墓が近くに位置している。土器棺は彩色を施された大型の壺形土器である。4個の深鉢形土器が共伴されている。壺形土器には、二次改葬した骨が納骨されていた可能性が高く、深鉢形土器は蓋や共献用の土器と考えられる。さらに、8号住居跡と土器棺墓は、7号河川跡の末端部に位置する。この河川跡からは、後期初頭~前葉の土器片が出土し、大型の平坦な台石や、赤色が付着した角礫も出土している。この赤色付着面が平坦面であることから、これは顔料を生成する台石であったものと考えられる。

後期中葉期では、2号・4号住居跡が地床炉をもち、3号住居跡は石囲炉を有する。これらの中で、2号と3号住居跡は近い距離に位置する。2号住居跡は、第1号河川跡に住居のほぼ半分を削られている。おそらく土石流によって河川が形成され、その時に、一気に削平されたものであろう。3号住居跡の覆土および周辺も多量の礫で覆われてあり、これも土石流が堆積した結果である。2軒の住居跡は、東岳から流出した土石流によって、住居跡が破壊されたもの、埋もれた被災家屋ということになる。

今回の調査区および隣接する平成13年度の調査区からは、大小の規模はあるものの土石流による痕跡(小谷や河川跡)が多数確認されている。遺構は、この土石流の少ない比較的安定した箇所で検出されている。本地区は、平坦な面が広がる安定した地形ではなく、東から西に向かって標高36~30mの緩やかな傾斜面が続く。特に調査区220~230ライン以西は扇状地性低湿地を形成している。遺構の分布や地形の標高から、縄文時代の本地区の地形は、複数の小谷や河川跡に挟まれた、尾根状の高まり(微高地)が多数あったものと想定される。つまり、こういった地形では、住居跡が群をなす集落構成は少なく、住居跡を構築可能な尾根状の微高地を選択して利用した可能性がある。

従って、本調査区の縄文時代中期・後期には、小規模の住居グループが点在した集落構成をなしたものと考えられる。

(大湯・杉野森)

第2節 中世について

本遺跡から検出した中世の遺構は、竪穴遺構4基、カマド状遺構39基、井戸跡42基、土坑墓1基、焼土遺構4基、集石遺構2基、溝跡21条、ピット1275個（このうち、掘立柱建物跡と推定されるのは1棟）である。

中世の所産と考えられる遺物では、陶磁器・古銭・木製品が出土している。陶磁器は、14~15世紀の舶来品としての青磁皿（龍泉窯）が井戸跡から、また第36号土坑からも青磁皿が出土している。古銭は土坑墓底面から3枚密着した状態で出土した。

これらのうち、本遺跡を特徴付ける木製品・井戸跡・カマド状遺構について記述する。

1 木製品

木製品は、井戸跡堆積土中を中心として多数（約250点）出土している。湿性に富む井戸跡や河川跡の低湿地部分から出土しているため比較的保存状態も良く、当時の使用状況などを垣間見ることができる。また、井戸枠を構成する部材については、次項の井戸跡にても記述する。

1) 飲食器・調理具 飲食器・調理具は8点出土している。漆器皿2点（図61-32・図62-12）、漆器椀2点（図62-9・10）、箸3点（図66-7~9）、折敷1点（図62-8）、俎板1点（図64-14）である。漆器皿の内1点（図61-32）の高台内面には黒漆地に朱漆で「二」という文字が書かれている。漆器文化財科学研究所所長四柳嘉章氏の所見によれば、このような品は一般的な集落からはあまり出土しない製品であるとのことである。木地にはブナが使用されている。高台の内側に「二」という文字が書かれている類例としては、秋田県南秋田郡井川町洲崎遺跡のS K 223から出土した漆器椀が挙げられる。同遺構は、形態や埋土から墓と考えられ、出土した椀は副葬品の可能性が高いと指摘されている。漆器椀は2点共内面に朱漆、外面に黒漆が塗られている。また、外面には朱漆で、それぞれ松文・草文が描かれている。図62-9の内面中央部には焼けた痕が認められる。木地は2点共にケヤキが用いられている。形状や施文の観察から、2点は同じ場所で作られた製品と考えられる。箸は3点、いずれも欠損した状態で第26号井戸跡から出土している。現存する端部は細く削られている。人為的に折つて廃棄した可能性も考えられる。折敷は食器を載せる台で、丁寧に加工が施され作られている。図62-8は欠損後、調理具としての俎板に転用されたものと思われる。両面に線状の刃物痕が多数認められる。図64-14も転用品の可能性があるが、小型の俎板と考えられる。片面に刃物痕が多数認められる。

2) 容器 曲げ物が3点（図63-2・図65-2・図98-6）、片口の鉢が1点（図66-7）出土している。曲げ物（図65-2）は、第21号井戸跡の底面から出土している。側板上部が一部欠損しているが、比較的良好な状態で出土している。側板の内面には縦・斜方向のケビキ痕が明瞭に見られる。桜桿と思われる側板を押さえる結束材や、側板と底板を固定する木釘も良好な状態で残っている。この曲げ物は出土状況から、井戸の水溜として利用されていた可能性が高い。（図63-2・図98-6）は、かなり摩耗しているが曲げ物の底板と思われる。片口の鉢（図66-7）は、第26号井戸跡から出土している。半割材か横木取りの素材を使い削り抜き方で作られ、底部には高台が付く。片口の一部と口縁部が1/4程欠損し、また、全体的に歪んでいるが、遺存状態は比較的良好であった。内外面の一部には黒漆

が残存している。おそらく、作られた当初・使用時には全体に黒漆が塗られていたものと思われる。文様の有無については不明である。

3) 履物 下駄が1点(図66-10)、第26号井戸跡から出土している。全体的に摩耗しているが、前縁に1個、横縁に2個、計3個の孔が認められる。下駄の歯は2枚造り出されている様子が窺える。

4) 機織り具 機織り具の部品と考えられる製品が1点(図62-11)出土している。柾目の角材を利用している。断面形状はやや継長の台形を呈し、両端の内側上部に上幅約1cm・下幅約5mm・深さ約5mm程の断面形が逆台形の刻みを有している。第5号井戸跡から出土している。米山(2)遺跡の生業の一つとして、機織りが行われていた可能性を示唆している。

5) 用途不明具 加工痕が認められるが、用途が不明なものを一括した。4点出土している。(図62-6)は棒状で、片方の端部内側に明瞭な括れ加工が施され、こけしの様な形状を呈している。第4号井戸跡から出土している。(図62-7)は二股に分かれ、鉤状を呈している。股木を利用してあり、端部には丁寧な加工が施されている。同じく第4号井戸跡から出土している。図65-1は幅16.2cm、厚さが5.8cm程の板材で、約8cmに於ける5×6cm程の四角い孔を開けている加工木である。現存部分では孔が3個空けられている。他の部材と組み合わせ使用されていたものか、単独で使用されていたものかどうかは判断できない。第21号井戸跡から出土している。(図67-4)は加工痕の見られる棒状の木製品である。直線ではなく、やや弧を描くように作られている。

6) 部材 井戸枠を構成する部材を一括する。井戸枠は、隅柱・横桟・縦板・楔等によって構成されている。隅柱には丸木材を用いるものと、角材を用いるものが見られる。丸木材も角材も横桟が差し込まれる膣穴を有している。丸木材を用いた隅柱の膣穴は全て貫通している。角材を用いた隅柱の膣穴には、貫通するものとしないものとが見られる。また、丸木材の膣穴を空ける部分はナタのような工具を使い、抉るようにして対となる部分に平坦面を造り出し、加工をしやすくしている特徴が見られる。膣穴加工位置を修正したものも1本確認されている。角材はその形状から、大半が柱材を再利用しているものと考えられる。横桟には隅柱より細めの丸木材や角材が用いられ、隅柱を再利用したものも確認されている。横桟の端部は、隅柱に空けられた膣穴にほぼ合うよう四角形に加工されている。隅柱の膣穴と差し込まれる横桟の端部との間に隙間が生じる場合には楔が利用されている場合も多い。第2号井戸跡の井戸枠は、2箇所で楔が装着された状態で検出されている。また、第2号井戸跡からは、計3個の楔が検出されているが、ほぼ同じ規格で作られている様子が窺える。板材には幅20~40cm、厚さ1~3cm程の柾目板が利用されている。板材は横桟の外側に縦方向に差し込まれ、横方向に差し込まれるものは本遺跡では見られない。本遺跡に近接する山下遺跡から検出された井戸側の板材も縦方向に差し込まれている。井戸側の構造の違いには、地域差・時間差があった可能性も考えられる。

2 井戸跡

今回の調査区、および平成13・18年度の調査にても、多数の井戸跡が検出されている。ここでは平成16・17年度に精査した井戸跡42基の特徴・性格について、同時存在したと考えられる他の遺構も含めて考えてみたい。

井戸跡の特徴

平面形：確認時の平面形は、①円形、②不整形、③隅丸方形に分けられる。

断面形：掘り方の断面形は、①円筒形、②逆台形、③漏斗形に分けられる。

規 模：規模は、①開口部(直径)70~350cm、②底部(直径)53~180cm、③深さ40~150cmである。

堆積土：堆積土は、①自然堆積、②人為堆積、③自然+人為堆積に分けられる。

井戸枠：①存在するもの、②存在しないものに分けられる。比較的掘り方の規模の小さいものは素掘りの井戸跡と考えられ、始めから井戸枠が存在していなかった可能性が高い。規模の大きな井戸跡については、廃棄時に井戸枠を取り外し、部材を再利用していた可能性も考えられる。

井戸枠は隅柱・横桟・板材等の部材によって構成されている。

部 材：隅柱には①丸木材、②角材を利用するものが見られる。本遺跡においては①・②の混合は見られない。丸木材に空けられた膾穴は四角形で、貫通するものが殆どである。また、丸木材の膾穴を空ける部分は両側にナタのような工具を使い、抉るようにして平坦な面を造り出す特徴が見られる。角材に空けられた膾穴には①貫通するもの、②貫通しないものが見られる。

横桟には①丸木材、②角材が用いられ、③隅柱を再利用したものも確認されている。①・②・③の端部は、隅柱に空けられた膾穴にはほぼ合うよう四角形に加工される。隅柱の膾穴と差し込まれる横桟とに隙間が生じる場合は楔が利用される。

板材の殆どは柵目板が利用されている。板材は掘り方からの土砂の流入を防ぐため、①横桟の外側に縦方向に差し込まれ、②横方向に差し込まれるものを見られない。使われている板材は再利用材が大半を占めるものと思われる。また、文字の判読はできなかったが、墨書きが施されている板材も1点見つかっている。

井戸跡は、遺構が比較的集中する地点からややまとまりを持って検出されている(図6)。井戸は言うまでもなく人工的な掘削により水を得るために造られた施設である。井戸水は季節、或いは、その年々によって水位の上下動はあるものの、安定した水量を確保するために必要な施設でもある。この地に多くの井戸跡が存在したということは、人々がここで多量の水を必要としていたことを意味している。それでは如何なる理由で多量の水が必要になったのであろうか。今回の調査区では、井戸跡の近くに「カマド状遺構」と呼ばれる施設が必ずといっていいほど存在している。一つの推論として、カマド状遺構で行われていた行為が多量の水を必要としていた可能性が考えられる。

3 井戸跡とカマド状遺構

中~近世代と考えられる井戸跡とカマド状遺構が同じ調査区内から検出されている遺跡として、県内では、むつ市(旧川内町)高野川(2)遺跡・八戸市根城跡・弘前市境閣館遺跡・同中崎館遺跡・同野脇遺跡・青森市山下遺跡・同宮田館遺跡等が挙げられる。高野川(2)遺跡では井戸跡1基とカマド状遺構1基が検出されている。井戸枠は木組方形縦板組隅柱横桟型である。隅柱には角材が利用され、膾穴は貫通するタイプである。井戸跡の堆積土中からは15世紀後半の所産と考えられる珠洲焼の壷鉢の破片が出土している。根城跡では井戸跡26基以上、カマド状遺構129基以上が検出されている。境閣館遺跡では井戸跡45基、カマド状遺構129基が検出されている。このうち井戸枠を検出できたものは5基である。中崎館遺跡では井戸跡8基、カマド状遺構5基が検出されている。野脇遺跡では中世

-近世にかけてと思われる井戸跡6基、カマド状遺構1基が検出されている。山下遺跡は米山(2)遺跡の南西隣に位置し、井戸跡6基、カマド状遺構21基が検出されている。1基の井戸跡からは井戸枠が検出されている。木組方形縦板組隅柱横桟型の井戸枠で、隅柱には丸木材が用いられている。膾穴は貫通するタイプである。宮田館遺跡は、山下遺跡の南西方に位置する。カマド状遺構が3基と、井戸跡も数基検出されている。

概観してみると、遺跡によって検出された遺構数にはらつきはあるが、ほぼ県内全域から検出されていることが分かる。検出された遺構に時期差は見られても、地域差は見られないものと考えられる。しかしながら、これらのカマド状遺構が全て同じ使用目的で造られたかは明確には判断できない。

また、カマド状遺構に関係なく井戸跡が存在していた場合はどうであろうか。井戸は本来居住区内に存在し、生活用水を確保するために掘られているものが多い。しかしながら、畑等が造られている場所にも井戸は存在する。現在、県内でリンゴや野菜等が作られている畑でも、薬剤散布や散水に利用するための水を井戸に依存しているところが見られる。平成13年度の調査区からは、近世以降の所産で烟跡と考えられている畠状の遺構が検出されている(図111)。本遺跡で検出された井戸跡も、畑で作られる作物への散水や干魃時に利用されていた農業用、また、居住区に近接して畑が存在していた場合には、生活用との併用であった可能性も考えられる。畑や水田の脇や側に掘られる井戸は、地域によっては「野井戸」と呼ばれている。特に奈良県の奈良盆地の野井戸は「隠し井戸」とも呼ばれ、水田灌漑用の補水施設とされている。このような井戸が造られるようになったのは文献等によると近世以降とされているが、初現的なものが中世にまで遡る可能性も考えられるのではないだろうか。

本遺跡で井戸枠が撤去されず使用時、或いは使用時に近い状態で見つかったものは3基(第2・20・32号井戸跡)確認されている。井戸枠の造りは3基全て木組方形縦板組隅柱横桟型と呼ばれているものである。4隅に膾穴が穿けられた柱を建て、膾穴に横桟が差し込まれ、その外側に板材が縦方向に差し込まれるものである。それらの部材を観察してみると、最初から井戸枠を構成するために造られた訳ではなく、別の場所で用いられた材を再利用している状況が確認されている。特に、第2号井戸跡に縦板として使われていた板材内の2枚、南縦板(図58-15)と南縦板(図58-16)は接合しており、残存部からは痕跡を得られていないが、接合状況からは幅約20cm、厚さ6cm程の柾目板を楔等を利用して約半分の厚さの板材に割っていたものと考えられる。その他の部材も接合はしないものの、殆どが再利用されたものと思われ、加工木材が貴重なものだったことを示唆している。第32号井戸跡の縦板は3重に差し込まれていたことが確認されている。補修を繰り返しながら長期間に亘って使われていた可能性が高く、縦板に使われていた板材の年輪年代法による測定結果からは、鎌倉時代の終わり頃(1304~1305年直後)から室町時代(1469年頃)にかけて、150年間以上の存続期間があったことが読み取れるとされている(詳細は第5章第5節に掲載している)。また、最初にも述べたが、隅柱には丸木材を用いるものと角材を用いるものが見られ、隅柱に空けられる膾穴も、貫通するものとしないものに分けられる。丸木材を用いているものは全て膾穴が貫通しており、角材を用いているものには貫通するものとしないものの両方が見られる。一概には言えないが、時期的には丸木材の方が角材よりも先行するものと考えられる。膾穴も貫通するものがしないものに先行する可能性が高いものと考えられるが、再利用の過程や用材の調達具合によっては逆転する場合もあり得る。

井戸の深さで最も浅いものは第27号井戸跡の40cm、最も深いものは第5号井戸跡の150cmで、平均

すると100cm前後である。平均値より浅い井戸跡は場所的には扇状地地形で、伏流水の水位が高いことが影響していると考えられ、逆に深い井戸跡は伏流水の水位が低い所にあると考えられる。最も深い第5号井戸跡は比較的標高が高いところにあり、水脈にたどり着くまでに深さを要したためであろうと考えられる。しかしながら、実際には遺構の確認できた面も種々の要因が異なるため、当時の生活面からの深さは明確には分からず。

(笹森)

4 カマド状遺構の用途について

カマド状遺構の殆どでは、その名の由来するとおり、壁面等が被熱して赤化・硬化したり、堆積土中に焼土粒・ブロックが混入するなど、火を焚いていた痕跡が認められている。火を焚くには燃料となる木や草等の存在と、その火・熱を受ける対象物が必要である。対象物についてはこれまでにも諸説（厨房施設）あげられているが、確たる物証は得られていない。おそらくは、鉄堀等に水を入れ火を焚いてなんらかを煮沸していたものと考えられるが、確証は得られていない。水量の面から見れば、煮沸行為よりも煮沸後の行為に多量の水を必要としていた可能性も考えられる。また、火を焚いた後に残る灰を得るために施設との説もあるが、とすれば必ずしも井戸や水が必要とは限らない。しかしながら、大半のカマド状遺構の堆積土中に、灰や炭化材が殆ど残っていない状況を考慮すれば、生じた灰を何らかに使用するために全て搔きだしていたということも考えられる。いずれにしても、カマド状遺構の用途については判然としていないのが現状である。

本遺跡の場合、カマド状遺構を從来の厨房施設とは考えにくい。その理由は①居住施設が不明瞭、②カマド状遺構と同等数の井戸跡があり、近接した位置にあることが挙げられる。これまで、境関館遺跡の129基が最大検出数であるが、本遺跡は18年度の調査（未報告）時点で100基を超えており、また、未調査域にも存在する可能性が非常に高く、県内最大規模に匹敵する。これまでの、遺跡の立地条件等が異なる本遺跡で、この遺構はどのように利用されていたのだろうか。

カマド状遺構からは、遺物は全く出土せず、燃焼部に残存する炭化物の放射性炭素年代測定や、重複する遺構の年代から、その利用時期は13~15世紀と幅のある期間が想定される。遺構の構造と屋外にある点から、個々のカマド状遺構の利用期間は短いものと推測されるが、中世期に継続的に構築・使用されたものと思われ、この時期の生業の基盤の一つであった可能性がある。また、機能面では、前述の通り、周辺に井戸跡が常に存在することから、その関わりに重要な意味が隠されている。井戸跡の構築目的は、生活用水というよりも、水を多量に必要とする生産加工に関わるものと推測される。なお、井戸跡からは、栽培食としてイネ・コムギ・キビ・ヒエ・アワ・麻の種子が採取されている。麻については、川口潤氏が「米山(2)遺跡II 報告書」の中で、「繊維に間連する遺構として麻を蒸す施設」とする可能性を指摘している。麻を蒸すには大きな堀と水が必要とされ、これを蒸すためには甕の子または桶状の容器が必要となる。桶の代わりに曲げ物でも可能であろう。本遺跡から麻の種子が比較的複数の井戸跡から出土していることも注目されよう。

また、今回、竪穴遺構が検出されたことで、建物に間連する遺構の存在が明らかとなった。なお、18年度の調査にても同様の遺構が検出されている。推測の域ではあるが、これらが作業小屋またはカマド状遺構で使用した生産に関わる道具等の保管場所として使用されていたとみることも可能ではないだろうか。

(大湯・杉野森)



図111 米山(2)遺跡全体図

住居跡出土土器観察表

図面番号	直横標	層位	器種	部位	口径(cm)	腹径(cm)	底径(cm)	施文	時期	備考
8 1	SI-01	床面	鉢	先形	10.4	9.8	4.3	斜行縞文L横位	最花式	
8 2	SI-01	床面	深鉢	口縁・底部下	(31.6)			斜行縞文L横位、底位長圓形文	最花式	
8 3	SI-01	堆積土		柄部				底位扁輪形体回転文	後期前葉	
8 4	SI-01	床面	深鉢	柄部				椎位R	中期後葉 - 末葉	
9 1	SI-02	床面	口付土器	先形				横文L-R、乳頭凹(0.05cm)、通底木製裏文	後期中葉	
9 2	SI-02	堆積土	鉢	口縁部				次第凹	後期	
9 3	SI-02	堆積土	小型壺	柄部・底部			3.0	底文	後期後葉	
11 1	SI-03	3層	深鉢	口縁・柄部	(25.3)			波狀口縁、口周部キザミ、三者組合の位置、波状、縦位吹き(沈縛)	十縷内I式	
11 2	SI-03	3層	深鉢	口縁部				口周部キザミ、口縁部横位吹き、縦縛	十縷内I式	
11 3	SI-03	2層	深鉢	口縁部				口周部キザミ、縦位吹縛	十縷内I-B式	表面筋状化物付着
11 4	SI-03	堆積土	深鉢	口縁部				横位、斜位吹縛	十縷内I式	
11 5	SI-03	2層	深鉢	口縁部				横位、斜位吹縛	十縷内I式	表面筋状化物付着
11 6	SI-03	1層	深鉢	口縁部				横位、斜位吹縛	十縷内I式	
11 7	SI-03	堆積土	鉢	口縁部				口周部二重状突起、横位吹縛	後期後葉	
11 8	SI-03	堆積土	深鉢	口縁部				折波口縁、貼り付け文、横文、横位、縦位吹縛	十縷内I A式	
11 9	SI-03	3層	深鉢	柄部				三者一組の様位、弦紋(沈縛)	十縷内I-B式	
12 10	SI-03	3層	深鉢	口縁・柄部	28.0			波狀口縁、二重による突起	十縷内I-B式	
12 11	SI-03	堆積土	深鉢	口縁部				円形吹縛、横位(沈縛)	十縷内I式	
12 12	SI-03	堆積土	深鉢	口縁部				横位、横位吹縛	十縷内I-B式	
12 13	SI-03	堆積土	深鉢	口縁部				口周部キザミ、吹縛	十縷内I-B式	
12 14	SI-03	堆積土	深鉢	口縁部				横位吹縛	十縷内I式	
12 15	SI-03	堆積土	深鉢	口縁部				横位吹縛	十縷内I式	
12 16	SI-03	堆積土	深鉢	口縁部				横位吹縛	十縷内I式	
12 17	SI-03	堆積土	鉢	口縁部				無文	後期中葉	
12 18	SI-03	堆積土	深鉢	柄部				横位、縱位吹縛	十縷内I式	
12 19	SI-03	3層	深鉢	柄部				横位、弦紋吹縛	十縷内I-B式	
12 20	SI-03	3層	鉢	口縁部				横位吹縛	十縷内I式	
12 21	SI-03	1層	深鉢	口縁部				羽状吹文(L-R、R)	後期中葉	
12 22	SI-03	3層	深鉢	口縁部				横位吹縛	十縷内I-B式	
12 23	SI-03	3層	深鉢	口縁部				横位吹縛	十縷内I-B式	
12 24	SI-03	3層	深鉢	口縁部・柄部	15.0			無文	後期中葉	
12 25	SI-03	1層	深鉢	柄下・底部			13.4	無文	後期前葉	
12 26	SI-03	2層	深鉢	柄下・底部				無文	後期前葉	
12 27	SI-03	堆積土	深鉢	口縁部				斜行縞文R	後期中葉	
12 28	SI-03	3層	深鉢	口縁部				羽状吹文(L-R、R)	後期中葉	
12 29	SI-03	堆積土	愛	柄部				縫文、崩り消し縛文、貼り縛	後期中葉	縫状化物付着
12 30	SI-03	3層	深鉢	口縁部				縫位吹縛	十縷内I式	
12 31	SI-03	2層	愛	柄部				無文	後期中葉	
12 32	SI-03	2層	小型深鉢	口縁部・底部	9.6	9.6	3.4	波狀口縁、L-R-L横位、縱位、縫位吹縛	後期中葉	口縁部内縫添付看
12 33	SI-03	堆積土	小型深鉢	柄部・底部			4.4	(L-R-L横位・縦位、崩り消し縛文)	後期中葉	
12 34	SI-03	2層	深鉢	柄部・底部			3.6	崩り消し(底付)、L-R-L横位、縫位吹縛	後期中葉	
12 35	SI-03	堆積土	愛	柄部				羽状吹文(L-R、R)、磨り吹縛	後期中葉	
13 36	SI-03	3層	鉢	口縁部				口周部吹縛、崩り消し縛文、外縫位吹縛	後期中葉	
13 37	SI-03	3層	深鉢	底部			4.5	無文	後期中葉	
13 38	SI-03	3層	深鉢	底部			10.5	無文	後期中葉	
13 39	SI-03	堆積土	深鉢	口縁部				口唇部吹縛、崩り消し縛文	後期中葉	
13 40	SI-03	3層	深鉢	口縁部				縫文、崩り消し縛文	後期中葉	
14 1	SI-04	床面	口付土器	柄部				崩り消し(底付)、L-R-L横位、縫位吹縛	後期中葉	
14 2	SI-04	床面	口付土器	柄部				縫文、崩り消し縛文	後期中葉	
14 3	SI-04	床面	口付土器	柄部				羽状吹文(L-R-L)、崩り消し縛文	後期中葉	
15 4	SI-04	床面	愛	口縁部	21.5			波狀口縁、横位次縫連通(一つ紋)、R-L羽状吹文	後期中葉	
15 5	SI-04	床面	愛	口縁部				横位次縫連通(一つ紋)、R-L羽状吹文	後期中葉	4と同一個体
17 1	SI-05	床面	深鉢	柄部	16.0	25.9	5.2	縫文L横位、縱位横円形	中期後葉	
17 2	SI-05	床面	深鉢	柄部				縫文L横位	中期後葉	
17 3	SI-05	床面	深鉢	口縁部				波狀口縁、口唇部底厚し上面に大いに凹	中期後葉	
17 4	SI-05	床面	深鉢	柄部			6.0	縫文L-R横位	中期後葉	
17 5	SI-05	堆積土	深鉢	底部				無文	中期後葉	
17 6	SI-05	堆積土	口付壺	口縁部				縫文R	中期後葉	
17 7	SI-05	2層	深鉢	柄部				縫文、崩の長縛円形文(沈縛)	中期後葉	
17 8	SI-05	堆積土	深鉢	柄部				縫位R-L	中期後葉	
19 1	SI-06	炉	深鉢	底部	18.6	39.3	11.5	縫文L横位	中期後葉	
19 2	SI-06	床面	深鉢	底部	16.1	36.7	9.2	縫文L横位	中期後葉	
19 3	SI-06	炉	深鉢	底部	15.2	23.7	7.0	縫文L横位	中期後葉	
19 4	SI-06	堆積土	深鉢	口縁部・横部				附加縞文R-L	中期末葉	
20 5	SI-06	堆積土	口付壺	底部				縫文R	中期後葉	
20 6	SI-06	床面	深鉢	口縁部				縫文L横位	中期後葉	
20 7	SI-06	床面	深鉢	口縁部				平口部に複縞R-L	中期後葉	
20 8	SI-06	床面	深鉢	口縁部				横位、斜位燃灰圧痕文	中期後葉	
20 9	SI-06	堆積土	深鉢	柄部				縫文R-L	中期後葉	縫状化物付着
20 10	SI-06	床面	深鉢	柄部				縫文L横位	中期後葉	
20 11	SI-06	床面	深鉢	底部下・底部			9.6	縫文L横位	中期後葉	
22 1	SI-07	堆積土	鉢	口縁部・横部	17.6			無文	後期前葉 - 中葉	輪構み痕あり
22 2	SI-07	床面	愛	底部下・底部			2.8	無文	中期後葉	
22 3	SI-07	堆積土	鉢	口縁部				斜位R-L	中期後葉	
23 1	SI-08	1層	鉢	柄部				單縞横筋回転文	後期後葉	
23 2	SI-08	1層	鉢	柄部				單縞横筋回転文	後期前葉	
23 3	SI-08	1層	鉢	柄部				底位弦状文(沈縛)	中期後葉	
23 4	SI-08	1層	鉢	柄部				斜位(沈縛)	十縷内I A式	

土器棺墓内出土土器観察表

図	番号	遺構名	層位	器種	部位	口径(cm)	唇高(cm)	底径(cm)	施文	時期	備考
25	1	第1号土器組	4層	甕	胴部上-底部	45.0	残存高 43.0	14.8	楕円形の入り組み文と斜向度横円彫文、斜向度引出し文に列の二字型突起を有する。口縁部は内側に内折れの土手がある。	十腫内IA式	文様間に赤色顔料塗布、下部に黒色物付着(漆?)、当該層に赤色顔料付着。
25	2	第1号土器組	4層	深鉢	胴部				無文、楕円形にケズリ調調。		表面にスス状炭化物
25	3	第1号土器組	4層	深鉢	口縁部				無文		
25	4	第1号土器組	4層	深鉢	口縁部				無文	十腫内I式	
25	5	第1号土器組	4層	深鉢	口縁部				無文	十腫内I式	
25	6	第1号土器組	4層	深鉢	口縁部				無文	十腫内I式	
25	7	第1号土器組	3層	深鉢	口縁部				無文	十腫内I式	
25	8	第1号土器組	堆積土	深鉢	口縁部				無文	十腫内I式	
25	9	第1号土器組	堆積土	深鉢	口縁部				折り返し口縁、楕円形(沈縛)	十腫内I式	
25	10	第1号土器組	4層	口縁部					模様、斜位(沈縛)	十腫内I式	
25	11	第1号土器組	1層	深鉢	口縁部				無文	十腫内I式	
25	12	第1号土器組	1層	深鉢	口縁部				無文	十腫内I式	
25	13	第1号土器組	堆積土	深鉢	口縁部				要型文(沈縛)	十腫内I式	
25	14	第1号土器組	4層	深鉢	口縁部				模様、斜位(沈縛)	十腫内IA式	スス状炭化物
25	15	第1号土器組	1層	深鉢	口縁部				弧状(沈縛)	十腫内I式	
26	16	第1号土器組	1-3層	深鉢	充形	24	35.8	12.0	六角状口縁、波状口縁(腰巻下端には内折れ)、口縁部に内側に内折れ及び外側に外折れの複合形文、口縁部に内側に内折れ及び外側に外折れの複合形文、波状口縁(腰巻下端には内折れ)、口縁部に内側に内折れ及び外側に外折れの複合形文。	十腫内IA式	器表面には、スス状炭化物
26	17	第1号土器組	4層	深鉢	口縁-胴部下	21.5	26.5		四角状口縁の帶下部腰巻、口縁部に内側に内折れ及び外側に外折れの複合形文、波状口縁(腰巻下端には内折れ)、口縁部に内側に内折れ及び外側に外折れの複合形文。	十腫内I式	器表面にスス状炭化物
26	18	第1号土器組	4層	深鉢	胴部				円形、弧状(沈縛)	十腫内IA式	器表面にスス状炭化物
26	19	第1号土器組	1層	深鉢	口縁-胴部下	26	34.2	4.4	五角状口縁、口縁部腰巻横に円形、横位長梅円彫文(紺土縛)	十腫内IA式	器表面にスス状炭化物
26	20	第1号土器組	4層	小型土器	底面						

土坑内出土土器観察表

図	番号	遺構名	層位	器種	部位	口径(cm)	唇高(cm)	底径(cm)	施文	時期	備考
92	1	第48号土坑	2層	底面					楕位模文(LR)	晚期	
92	1	第49号土坑	6層	牕	口縁部				無文	十腫内I式	
92	2	第49号土坑	6層	牕	胴部				沈縛	十腫内IB式	
92	3	第49号土坑	6層	牕	口縁部				楕位(沈縛)	十腫内IB式	
92	4	第49号土坑	6層	牕	口縁部				波状口縁、口縁部連続刻目、円形沈縛、椭圓狀次紋	十腫内IB式	
92	5	第49号土坑	堆積土	牕	胴部				模様、橫位(沈縛)	十腫内I式	
92	1	第57号土坑	堆積土	口縁部					二重の並行沈縛、縱位の楕圓狀次紋(沈縛)、口縁部に上下の唇巻	十腫内IA式	
92	2	第57号土坑	堆積土	牕	口縁部				縫合の二重の波状(唇巻及次紋)	十腫内IA式	
92	3	第57号土坑	堆積土	牕	口縁部				模様、斜位(沈縛)	十腫内I式	
92	4	第57号土坑	堆積土	牕	口縁部				模様、斜位(沈縛)	十腫内I式	
92	5	第57号土坑	堆積土	牕	口縁部				口縁部に平行、原位の楕圓狀次紋(沈縛)、口縁部に上下の貫通孔	十腫内IA式	
92	6	第57号土坑	堆積土	牕	胴部				円形(沈縛)	十腫内IA式	表面にスス状炭化物
93	1	第71号土坑	2層	牕	口縁部				長柄円形文、不整形文(沈縛)	十腫内IA式	
93	2	第71号土坑	3層	牕	口縁部				波状口縁、折り返し口縁	十腫内I式	
93	3	第71号土坑	1層	牕	口縁部				折り返し口縁、無文	十腫内I式	
93	4	第71号土坑	1層	深鉢	口縁部				折り返し口縁、無文	十腫内I式	
93	5	第71号土坑	2層	深鉢	口縁部				無文	十腫内I式	
93	6	第71号土坑	2層	牕	口縁部				無文	十腫内I式	
93	7	第71号土坑	2層	浅鉢	口縁部				曲線文(沈縛)	十腫内I式	
93	8	第71号土坑	3層	深鉢	胴部				無文	十腫内I式	
93	9	第71号土坑	1層	牕	口縁部				交差状文(沈縛)	十腫内IA式	
93	10	第71号土坑	1層	牕	口縁部				模様(LR)	後期前葉	
93	11	第71号土坑	2層	深鉢	胴部				無文	十腫内I式	
93	12	第71号土坑	3層	底面						後期	
93	13	第71号土坑	2層	底面							

河川跡出土土器観察表(1)

図	番号	遺構名	層位	器種	部位	口径(cm)	唇高(cm)	底径(cm)	施文	時期	備考
96	1	第1号河川跡	底面	牕	口縁部	27.8			折り返し口縁、繩文	後期初頭	
96	2	第1号河川跡	底面	牕	口縁部	25.8			折り返し口縁、繩文	後期初頭	
96	3	第1号河川跡	底面	牕	口縁部				折り返し口縁	後期初頭	
96	4	第1号河川跡	堆積土	牕	口縁部				無文	後期中葉	
96	5	第1号河川跡	堆積土	牕	口縁部				楕位の繩状状況縛	十腫内IB式	
96	6	第1号河川跡	底面	牕	口縁部				單輪足条体回転文	内面下履 d式	
96	7	第1号河川跡	堆積土	牕	口縁部				内円形、楕円形、沈縛、粘土縛	十腫内I式	
96	8	第1号河川跡	底面	深鉢	胴部				楕位(沈縛)	十腫内IB式	又ス状炭化物
96	9	第2号河川跡	堆積土	牕	口縁部	(31.2)			楕座状沈縛	十腫内IB式	
96	10	第2号河川跡	堆積土	牕	口縁部				方型(沈縛)、楕圓状沈縛	十腫内IB式	
96	11	第2号河川跡	堆積土	牕	口縁部				楕位(沈縛)、入組文(沈縛)	十腫内I式	
96	12	第2号河川跡	堆積土	牕	口縁部				楕座状沈縛	十腫内IB式	
96	13	第2号河川跡	堆積土	牕	口縁部				楕口状捺系文	十腫内IA式	
96	14	第2号河川跡	堆積土	牕	口縁部				波狀口縁、不整形文(楕座状沈縛)	十腫内IB式	

河川跡出土土器観察表(2)

図面番号	遺構名	層位	器種	部位	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	施文	時期	備考
99. 11	第2号河川跡	堆積土	鉢	口縁部				ボタン状突起付口縁、縦位・底位沈線	十種内I式	
99. 12	第2号河川跡	堆積土	鉢	口縁部				縦状手縫	十種内I式	
99. 13	第2号河川跡	堆積土	鉢	口縁部				縦文LR、縦位沈線、渦巻文	十種内I式	
99. 14	第2号河川跡	堆積土	鉢	脚部				羽狀縞文(LR, RL)、縦位沈線	後期中葉	
99. 15	第2号河川跡	堆積土	深鉢	口縁部				羽狀縞文(LR, RL)、磨り消し縞文	後期中葉	
99. 16	第2号河川跡	堆積土	鉢	脚部				無文	後期中葉	
99. 17	第2号河川跡	堆積土	鉢	底部				無文	後期中葉	
99. 18	第2号河川跡	堆積土	鉢	脚部下・底部		9.5		十種内I式	内面スヌ状炭化物	
99. 19	第2号河川跡	堆積土	鉢	底部				縞文(L)、磨り消し縞文	後期中葉	
99. 20	第2号河川跡	堆積土	鉢	底部			(8.2)	無文	後期後葉	
99. 21	第2号河川跡	堆積土	鉢	底部				無文	後期前葉	
99. 22	第2号河川跡	堆積土	深鉢	脚部下 - 底部		22.0		無文	後期前葉	
100. 1	第3号河川跡	底面	口縁部					口唇部突起、口縁部貼り瘤	後期中葉	
100. 2	第3号河川跡	底面	口縁部					無文	後期	
100. 3	第3号河川跡	底面	口縁部					口唇部突起	十種内I式	
100. 4	第3号河川跡	底面	口縁部	突起				口唇部突起、口縁部貼り瘤、口縁部模文	後期中葉	
100. 1	第7号河川跡	堆積土	口縁部					縦位、縦位横円形文	磨花式	
100. 2	第7号河川跡	2層	深鉢	口縁 - 底部	27.7	37.2	11.0	縞文	中期末葉 - 後期前葉	
100. 3	第7号河川跡	2層	深鉢	口縁 - 脚部下 (17.7)				格子目状沈線	十種内I式	
100. 4	第7号河川跡	2層	鉢	脚部				網目状模文	十種内I式	
100. 5	第7号河川跡	2層	鉢	脚部				網目状模文	十種内I式	
100. 6	第7号河川跡	2層	鉢	脚部				燃然文	十種内I式	
100. 7	第7号河川跡	2層	鉢	脚部				貼り付け縫、椭円形文(沈縫)	十種内I式	
100. 8	第7号河川跡	2層	鉢	脚部				口唇部 - 一条の沈縫、貼り付け縫、縦位横円形文(沈縫)、内面 - 一条の沈縫	十種内I式	
100. 9	第7号河川跡	2層	口縁部					折りりし口縫、内面に - 一条の沈縫、横円形文(沈縫)	十種内I式	
100. 10	第7号河川跡	2層	脚部					渦巻文(沈縫)	十種内I式	
100. 11	第7号河川跡	2層	口縁部					網目状模文	十種内I式	
100. 12	第7号河川跡	2層上部	口縁部					口縫無文、網目状模文	十種内I式	
100. 13	第7号河川跡	2層	口縁部					折りりし口縫、縦文RL、沈縫	スヌ状炭化物	
100. 14	第7号河川跡	2層	脚部					渦巻文(沈縫)	十種内I式	
100. 15	第7号河川跡	2層	口縁部					網目状模文	十種内I式	
100. 16	第7号河川跡	2層	底部					縞文R	後期前葉	
100. 17	第7号河川跡	壁面							磨花式	
100. 18	第7号河川跡	2層	脚部			7.7		縞文LR	後期中葉	
100. 19	第7号河川跡	2層	台付鉢	脚部下 - 底部		5.4		斜位(沈縫)	十種内I式	
								U字文	大洞A式	

遺構外出土器観察表(1)

図面番号	グリット名	層位	器種	部位	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	施文	時期	備考
102. 1	IVT-246	II層	深鉢	口縁部				口唇部粘突体、口縁部横円形文(L-R)、肩压縫、脚部(沈縫)、底位(沈縫)	内面下唇d	
102. 2	IVT-252	II層	深鉢	口縁部				縞文LR	中期後葉	
102. 3	IVT-248	II層	深鉢	口縁部				波状口縫、縦位 - 縦位粘突縫、縦位横円形文(沈縫)	内面下唇a	スヌ状炭化物
102. 4	IVT-218	III層	深鉢	口縁部				口唇部肥厚上面洗縫、器面に三条の縦位沈線文	楕林式	
102. 5	IVT-216	III層	深鉢	口縁部				口唇部付け口縫、口縁部沈縫、口縁部横円形文(沈縫)、背位第二弾の縦位沈縫	楕林式	
102. 6	IVT-215	III層	深鉢	脚部				三條の縦位沈縫文	磨花式	スヌ状炭化物
102. 7	IVT-281	III層	広口壺	口縁部				縦位長縫、長圓形文(沈縫)	磨花式	
102. 8	IVT-215	III層	深鉢	口縫 - 脚部		25.0		四角口縫、長圓形文(沈縫)	磨花式	
102. 9	IVT-240	III層	深鉢	口縫部				二槽の横縫(沈縫)	十種内I式	
102. 10	IVT-242	III層	深鉢	口縫部				横位、弧状(沈縫)	十種内I式	
102. 11	IVT-240	III層	深鉢	口縫部				横位(沈縫)	十種内I式	
102. 12	IVT-225	III層	深鉢	口縫部				折りりし口縫、照系文R	十種内I式	
102. 13	IVT-221	III層	鉢	脚部下 - 底部		7.6		縞文L、横位	楕林 - 磨花式	
102. 14	IVT-244	III層	鉢	脚部 - 底部		5.7		縞文L、横位	楕林 - 磨花式	
102. 15	IVT-248	III層	深鉢	口縫部				波状口縫、横位、波状(沈縫)	十種内I式	
102. 16	IVT-207	III層	深鉢	脚部				斜行横文(磨花横文)、R	十種内I式	
102. 17	IVT-246	I層	深鉢	口縫部				折りりし口縫、縦文RL	十種内I式	スヌ状炭化物
103. 18	IVT-242	II層	深鉢	口縫部				波状口縫、長圓形文(沈縫)	十種内I式	
103. 19	IVQ-232	II層	深鉢	口縫部	20.0			横位、三角形、渦巻(沈縫)	十種内I式	
103. 20	IVL-229	II層	深鉢	脚縫 - 脚部	20.4			横位、三角形、渦巻(沈縫)	十種内I式	
103. 21	IVT-242	II層	鉢	脚部下 - 底部		11.0		無文	十種内I式	
103. 22	IVP-243	II層	深鉢	脚部	27.0			縦位の3本の沈縫、弧状沈縫文	十種内I式	
103. 23	IVT-207	II層	深鉢	脚部				貼り付け縫、弧状、長圓形文(沈縫)	十種内I式	
103. 24	IVT-242	II層	深鉢	脚部				曲線(沈縫)	十種内I式	P 19
103. 25	IVP-241	II層	深鉢	脚部下 - 底部		12.0		無文	十種内I式	
103. 26	IVS-240	II層	深鉢	口縫部				円形、横位、不整形(沈縫)	十種内I式	
103. 27	IVS-240	II層	鉢	口縫部				横位、斜位(沈縫)	十種内I式	
103. 28	IVT-208	II層	深鉢	口縫部				貼り付け縫、円形文、渦巻文(沈縫)	十種内I式	
103. 29	IVO-241	II層	甕	口縫部				横状手縫、無文	十種内I式	
103. 30	IVC-236	II層	甕	脚部				人組文(沈縫)	十種内I式	
103. 31	IVL-216	II層	深鉢	口縫部				長圓形文、円形(沈縫)	十種内I式	
103. 32	IVP-246	II層	深鉢	口縫部				ゆるい波状口縫、複多縫(沈縫)	十種内I式	
103. 33	IVM-242	II層	深鉢	口縫部				複位波状沈縫	十種内I式	赤色顔料渋滞
103. 34	IVT-246	II層	深鉢	口縫部				貼り付け縫、複多縫(沈縫)	十種内I式	
103. 35	IVO-242	I層	深鉢	口縫部				縦目状沈縫、沈縫	十種内I式	P 27, 28

遺構外出土器観察表(2)

図	番号	グリッド名	層位	器種	部位	口径(cm)	肩高(cm)	底径(cm)	施文	時期	備考
104	36	IVI-215	II層	深鉢	口縁部				横位、楕圓状沈縫	十縹内 I B式	
104	37	IVS-238	II層	深鉢	口縁部				波状口縁、楕圓状沈縫	十縹内 I B式	
104	38	IVD-242	II層	深鉢	口縁部				波状(沈縫)、楕圓状沈縫	十縹内 I 式	
104	39	IVS-247	II層上	深鉢	口縁部				楕圓状沈縫	十縹内 I B式	スヌ状炭化物
104	40	IVM-244	II層	深鉢	口縁部				二重の横位、複位の弧状文(沈縫)	十縹内 I B式	
104	41	IVL-229	II層	鉢	口縁部				横位、舌瓦状(沈縫)	十縹内 I 式	
104	42	IVB-242	III層	深鉢	口縁部				波状口縁、斜位(沈縫)	十縹内 I B式	
104	43	IVB-242	II層	深鉢	口縁部				円形割文字(沈縫)、斜位(沈縫)	十縹内 I B式	
104	44	IVS-245	II層	深鉢	脚部				横位、斜位、楕圓(沈縫)	十縹内 I 式	
104	45	IVR-208	I層	深鉢	脚部				横位、斜位、楕圓(沈縫)	十縹内 I B式	
104	46	IVI-229	II層	深鉢	口縁部				無文	十縹内 I 式	裏面にスヌ状炭化物
104	47	IVS-238	II層	深鉢	口縁部				横位(沈縫)、彌文丸	十縹内 I 式	
104	48	IVR-241	II層	深鉢	口縁部				彌文、クラウン状(沈縫)、彌文(沈縫)	十縹内 I A式	
104	49	IVF-240	I層	深鉢	口縁部				網目状捺文	十縹内 I A式	
104	50	III-212	I層	深鉢	口縁部				彌文	十縹内 I 式	
104	51	III-212	II層	深鉢	口縁部				波状口縁、弧状(沈縫)	十縹内 I 式	
104	52	III-212	III層	深鉢	口縁部				波状口縁、横位(沈縫)	十縹内 I 式	
104	53	III-212	II層	深鉢	口縫 - 底部	30.0	32.9	7.5	波状口縁、羽状彌文	後期中 - 後葉	
104	54	IVF-207	II層	深鉢	脚部				網目状捺文	十縹内 I A式	
104	55	IVR-254	II層下	深鉢	口縫部				彌文LR	晚期	表面にスヌ状炭化物
105	56	IVN-220	II層	深鉢	口縫 - 脚部	24.7			彌文	後期	
105	57	IVN-220	II層	鉢	口縫部	16.0			羽状彌文、磨り消し彌文	後期後葉	
105	58	IVN-220	II層	鉢	口縫部	14.8			無文	後期後半	
105	59	IVG-216	II層	深鉢	脚部				沈縫、粘土粒	大洞A	
105	60	IVB-237	II層	鉢	口縫 - 脚部	9.0			無文	後期後半	
105	61	IVD-242	I層	深鉢	口縫部				彌文(沈縫)	十縹内 II式	
105	62	IVI-211	II層	鉢	口縫部				口縫部捺文(沈縫)、ヰザミ、要焼成文	十縹内 II式	
105	63	IVM-242	II層	深鉢	口縫部				円形割文字(沈縫)	十縹内 I B式	
105	64	IVR-254	II層下	鉢	口縫 - 底部	18.0	15.3	7.8	彌文(沈縫)、口縫部三筋の捺縫	大洞A	
105	65	IVD-249	II層	鉢	口縫 - 底部	15.7	13.4	6.4	口縫部(沈縫間に土粒)、網目縫 エマリ、扇形口文	大洞A	スヌ状炭化物
105	66	IVT-252	I層	鉢	口縫部				口縫部(沈縫突起)、変形文字 (沈縫)、内面沈縫	大洞A	

剥片石器観察表(1)

図	番号	位置	層位	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考	取上№	整理番
9	4	堆積土	石芯		35.0	44.0	6.0	9.4	珪質頁岩	S-8	4074	
9	5	SI-02	石芯		31.0	59.0	6.0	13.4	珪質頁岩		4002	
9	6	SI-02	石芯		41.0	45.0	7.0	13.5	珪質頁岩		4001	
10	1	SI-03	石面	石芯	7.0	30.0	3.2	8.5	珪質頁岩		4121	
10	2	SI-03	石面	石芯	(5.0)	33.0	8.5	16.0	珪質頁岩		4131	
10	3	SI-03	石面	石芯	(27.5)	33.0	3.5	6.0	珪質頁岩		4131	
15	9	SI-04	堆積土	二次加工剝片	11.0	74.5	12.0	110.8	珪質頁岩	S-2	4008	
15	10	SI-04	堆積土		(34.0)	14.0	7.0	2.7	珪質頁岩	S-9	4009	
15	11	SI-04	堆積土		56.0	(73.0)	10.0	43.4	珪質頁岩	S-22	4010	
17	9	SI-05	堆積土	石芯	63.0	34.0	9.5	18.2	珪質頁岩	S-7	4169	
17	10	SI-05	堆積土	二次加工剝片	57.0	52.0	12.0	43.1	珪質頁岩	S-3-1	4013	
17	11	SI-05	堆積土	石芯	33.0	20.0	7.0	3.8	珪質頁岩	S-11	4026	
17	12	SI-05	堆積土	二次加工剝片	(35.0)	22.0	9.0	4.5	珪質頁岩	S-1	4011	
17	13	SI-05	堆積土	二次加工剝片	(29.0)	13.0	7.0	2.5	珪質頁岩	S-12	4027	
23	5	SI-06	1 所蔵		86.0	26.0	13.0	40.1	珪質頁岩		5012	
23	6	SI-06	2 所蔵		71.0	76.5	13.5	71.2	珪質頁岩		5022	
23	7	SI-06	2 所蔵		59.0	36.0	12.0	20.4	珪質頁岩	S-10	5008	
23	8	SI-06	2 二次加工剝片		(51.0)	48.0	5.0	20.5	珪質頁岩	S-9	5006	
23	9	SI-06	堆積土		52.0	25.0	7.0	9.6	珪質頁岩	S-4	5003	
23	10	SI-06	2 烧成剝離のある剝片		(33.0)	(25.0)	5.0	4.3	珪質頁岩	S-9	5007	
26	21	土壤灰	4 二次加工剝片		(36.0)	25.0	12.0	11.5	珪質頁岩		5015	
93	14	SK-71	2 石頭		(34.0)	16.5	7.5	4.5	珪質頁岩		5134	
96	9	1号河川跡	1 石頭		25.5	13.5	4.0	1.1	珪質頁岩	IVL-229グリッド、有茎	4310	
96	10	1号河川跡	1 石頭		24.5	9.5	4.5	0.7	珪質頁岩	IVL-229グリッド、有茎	4307	
96	11	1号河川跡	1 石頭		22.0	11.0	4.0	0.8	珪質頁岩	IVK-229グリッド、有茎	4323	
96	12	1号河川跡	堆積土		35.0	17.5	6.0	3.2	珪質頁岩	IVK-232グリッド	4330	
96	13	1号河川跡	堆積土・石頭未製品		34.0	23.0	8.0	4.9	珪質頁岩	IVM236グリッド	4388	
96	14	1号河川跡	堆積土		80.0	30.0	15.0	37.8	珪質頁岩	IVK-232グリッド	4333	
96	15	1号河川跡	1 石頭		(44.0)	32.0	6.5	8.6	珪質頁岩	IVL-228グリッド	4370	
96	16	1号河川跡	堆積土		(34.0)	(41.0)	13.0	12.7	珪質頁岩	IVI-231グリッド	4035	
96	17	1号河川跡	底面	二次加工剝片	30.0	44.0	11.5	14.1	珪質頁岩	IVI-231グリッド	4393	
96	18	1号河川跡	堆積土		28.5	42.0	8.5	10.3	玉辭質珪質頁岩	IVI-231グリッド	4036	
97	19	1号河川跡	堆積土		30.0	42.0	9.0	11.0	珪質頁岩	IVI-231グリッド	4395	
97	20	1号河川跡	堆積土・燒成剝離のある剝片		25.5	37.0	11.5	9.4	珪質頁岩	IVK-232グリッド	4387	
97	21	1号河川跡	堆積土		34.0	32.0	8.0	9.6	玉辭質珪質頁岩	IVI-231グリッド	4337	
97	22	1号河川跡	堆積土		36.0	65.0	13.0	26.0	珪質頁岩	IVI-231グリッド	4034	
97	23	1号河川跡	堆積土		70.0	38.0	17.0	47.6	珪質頁岩	IVI-231グリッド	4032	
97	24	1号河川跡	2 所蔵		76.0	46.0	2.0	6.7	珪質頁岩	IVL-229グリッド	4031	
98	1	1-2号河川跡	底面	燒成剝離のある剝片	24.0	34.0	6.5	6.0	珪質頁岩	IVI-230グリッド	4410	
98	2	1-2号河川跡	底面	燒成剝離	47.0	33.0	5.0	9.5	珪質頁岩	IVI-227グリッド	5-6 4400	

剥片石器観察表(2)

図 番号	位置	層位	種類	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石 材	備 考	取上№	整理№
99	23	2号河川跡	堆積土 石頭	24.0	14.0	6.0	1.1	珪質頁岩	IV-K-229グリッド	4040	
99	24	2号河川跡	堆積土 石頭	41.0	17.0	7.5	5.2	珪質頁岩	IV-K-230グリッド	4429	
100	5	3号河川跡	底面 石頭	59.0	22.5	5.5	6.4	珪質頁岩	IV-L-226グリッド	4463	
100	6	3号河川跡	堆積土 石頭	84.0	29.0	1.0	25.2	珪質頁岩	IV-K-225グリッド	5-1	4041
100	7	3号河川跡	堆積土 石頭	33.0	55.0	9.0	9.3	珪質頁岩	IV-K-226グリッド	S-28	4042
100	8	3号河川跡	底面 石頭	50.0	31.0	9.5	13.5	玉髓質珪質頁岩	IV-L-226グリッド	S-64	4492
101	20	7号河川跡	2 石頭	46.0	23.0	13.0	11.0	珪質頁岩	IV-S-217グリッド		5025
101	21	7号河川跡	2 石頭	37.0	15.0	6.0	3.8	珪質頁岩	IV-S-207グリッド		5024
101	22	7号河川跡	2 一次加工剝片	40.0	28.0	4.0	6.5	珪質頁岩	IV-S-208グリッド		5014
101	23	7号河川跡	2 一次加工剝片	(33.0)	23.0	6.0	7.1	珪質頁岩	IV-T-208グリッド		5023
106	1	IV-L-226	田 石頭	31.0	16.5	4.0	1.4	珪質頁岩	無型		4506
106	2	IV-R-241	田 石頭	(22.0)	13.5	3.5	0.6	玉髓質珪質頁岩	有茎		4508
106	3	IV-P-242	I 石頭	25.0	14.5	3.0	0.7	珪質頁岩	無型		4510
106	4	V-A-246	I 石頭	24.0	13.5	3.0	0.7	珪質頁岩			5137
106	5	IV-V-244	I 石頭	49.0	17.0	7.0	5.1	珪質頁岩			4723
106	6	IV-P-201	田 石頭	(20.0)	11.0	4.0	0.9	玉髓質頁岩	無型	S-1	4594
106	7	IV-P-211	田 石頭	26.0	31.5	3.5	0.9	珪質頁岩	無型		4604
106	8	IV-P-238	田 石頭	(31.0)	13.5	5.5	2.2	珪質頁岩			4609
106	9	IV-M-256	I 石頭	(35.0)	24.5	5.0	2.2	玉髓			5131
106	10	IV-P-242	I 石頭	26.0	10.0	4.5	0.8	珪質頁岩			5123
106	11	IV-O-236	I 石頭	16.0	11.0	4.5	1.4	珪質頁岩			4625
106	12	IV-R-252	I 石頭	25.0	16.5	3.0	1.6	玉髓			5130
106	13	IV-S-207	田 石頭	35.0	22.0	5.5	4.2	珪質頁岩			5132
106	14	IV-M-227	IV 石頭	(31.0)	28.0	9.0	7.5	珪質頁岩			4058
106	15	IV-H-229	III 石頭	65.0	32.0	10.0	16.9	珪質頁岩			4060
106	16	IV-D-233	III 石頭	95.0	32.0	9.0	33.2	珪質頁岩	細型		5136
106	17	V-B-253	I 石頭	110.0	38.0	12.0	56.4	珪質頁岩	細型		5137
106	18	IV-L-225	III 石頭	75.0	34.0	13.0	27.7	珪質頁岩	細型		4629
106	19	IV-J-227	IV 石頭	95.0	54.0	11.0	45.0	珪質頁岩			4056
106	20	IV-J-231	I 石頭	51.0	67.0	8.0	22.8	珪質頁岩	細型		4632
106	21	IV-Q-238	III 石頭	53.0	62.5	8.5	22.5	珪質頁岩			4637
107	22	IV-S-207	II 石頭	35.0	56.0	7.0	12.3	珪質頁岩	細型		5139
107	23	IV-E-211	II 石頭	30.0	67.0	7.0	12.2	珪質頁岩			4045
107	24	IV-M-227	IV 石頭	28.0	48.0	7.0	9.9	珪質頁岩	細型		4628
107	25	V-E-249	II 石頭	62.0	81.0	13.5	59.9	珪質頁岩	未製品 細型		5140
107	26	IV-R-238	III 石頭	32.0	52.0	8.0	19.0	珪質頁岩			4067
107	27	IV-O-243	II 石頭	36.0	37.0	4.0	5.2	珪質頁岩	細型		5138
107	28	IV-L-232	I 石頭	(41.5)	19.0	7.5	3.2	珪質頁岩			4671
107	29	IV-L-225	III 石頭	(79.0)	52.0	10.0	30.1	珪質頁岩			4689
107	30	V-T-248	II 石頭	9.5	36.0	19.0	71.0	珪質頁岩			5145
107	31	IV-H-228	IV 石頭	(42.0)	26.0	13.5	16.0	玉髓質珪質頁岩			4688
107	32	IV-J-211	II 石頭	45.0	27.0	7.0	5.9	珪質頁岩			4050
107	33	V-E-252	I 定形石器の刃部	(25.0)	29.0	10.5	7.6	珪質頁岩	または石頭		5141
107	34	IV-M-219	II 種類	(26.0)	48.0	12.0	18.3	珪質頁岩			5142
107	35	IV-M-227	IV 石頭	(35.0)	39.0	9.0	10.0	珪質頁岩			4057
107	36	IV-K-229	I 種類	(32.0)	37.0	9.0	10.0	珪質頁岩			4061
107	37	IV-M-230	IV 定形石器の刃部	(20.0)	(20.0)	4.0	1.3	珪質頁岩			4064
107	38	IV-L-234	III 定形石器の刃部	(32.0)	(19.0)	9.0	5.1	珪質頁岩	石錠		4065
107	39	IV-R-240	III 種類	12.0	6.0	21.0	118.9	珪質頁岩			4694
108	40	IV-M-226	III 種類	76.0	39.0	18.0	38.4	珪質頁岩			4054
108	41	IV-L-210	III 種類	55.0	25.0	5.0	9.4	珪質頁岩			4048
108	42	IV-R-243	III 種類	43.0	39.0	12.0	21.3	珪質頁岩			4071
108	43	IV-R-238	III 種類	30.0	27.0	7.0	5.5	珪質頁岩			4693
108	44	IV-Q-255	II 種類	(42.0)	34.0	11.0	15.1	珪質頁岩			5144
108	45	IV-H-225	IV 種類	53.5	49.0	11.5	30.1	珪質頁岩			4690
108	46	IV-K-218	堆積土 種類	42.0	36.0	10.0	17.2	珪質頁岩			4044
108	47	IV-L-229	III 種類	27.0	49.5	5.0	5.6	珪質頁岩			4062
108	48	IV-R-236	III 一次加工剝片	34.0	38.0	5.0	15.0	珪質頁岩			4066
108	49	IV-N-242	III 二次加工剝片	62.0	37.0	14.0	22.4	珪質頁岩			4070
108	50	IV-N-242	III 一次加工剝片	72.0	42.0	11.0	33.6	珪質頁岩			4069
108	51	IV-N-243	堆積土 一次加工剝片	32.0	31.0	10.0	12.5	珪質頁岩			4072
108	52	IV-R-243	III 一次加工剝片	(39.0)	38.0	7.0	12.5	珪質頁岩			4073
108	53	IV-Q-241	IV 種類	54.0	48.0	12.0	26.8	珪質頁岩			4068
108	54	SF-19	堆積物 番號のある剝片	(56.0)	3.0	10.0	14.9	珪質頁岩			4676
108	55	IV-H-211	IV 種類	29.0	32.0	14.0	12.5	珪質頁岩			4049
108	56	IV-R-243	IV 番號のある剝片	(51.0)	32.0	12.0	15.2	珪質頁岩			4692
108	57	IV-P-255	IV 番號のある剝片	56.0	22.0	7.0	9.8	珪質頁岩			5143
108	58	VA-251	I 番號	(22.0)	21.0	5.0	2.5	云霧質珪質頁岩			5111
108	59	IV-B-238	III 番號	(25.0)	32.0	7.0	2.6	珪質頁岩			4691

砾石器観察表

図面番号	出土位置	層位	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	備考	取上No	整理No	
8	5	SI-01	床面	磨石	10.3	11.6	4.9	816.9	砂岩	S-5	5	
8	6	SI-01	床面	磨石	(13.1)	5.7	4.7	588.0	流紋岩	S-11	11	
8	7	SI-01	床面	磨石	12.8	9.4	4.5	605.0	デイサイト	S-8	7	
8	8	SI-01	堆積土	磨石	14.0	13.6	4.2	1178.0	デイサイト	S-1	1	
8	9	SI-01	堆積土	石皿・台石	(31.2)	26.5	9.8	1770.0	花崗岩	S-3	19	
9	7	SI-02	床面	磨石	11.3	8.3	5.0	705.6	デイサイト	S-2	21	
9	8	SI-02	床面	磨石	9.9	7.9	4.7	530.2	デイサイト	S-13	26	
9	9	SI-02	床面	石皿・台石	18.2	13.4	5.8	1816.3	デイサイト	S-11	24	
9	10	SI-02	床面	石皿・台石	28.2	25.9	3.0	2925.7	デイサイト	9-7とセットで出土	20	
13	41	SI-03	3	磨石	9.7	8.3	5.4	569.0	デイサイト	S-4	40	
13	42	SI-03	堆積土	磨石	11.0	9.7	6.3	847.2	デイサイト	S-X	39	
13	43	SI-03	堆積土	磨石	3.4	3.5	3.5	54.7	石英	S-X	46	
13	44	SI-03	堆積土	磨石	(13.9)	7.1	5.2	784.6	流紋岩	S-X	45	
13	45	SI-03	3	磨石	(11.0)	6.7	6.3	784.6	流紋岩	S-3	41	
13	46	SI-03	堆積土	石皿・台石	19.4	16.3	3.7	2220.7	流紋岩	S-X	37	
13	47	SI-03	堆積土	石皿・台石	24.0	25.0	5.7	4599.6	デイサイト	S-X	38	
15	6	SI-04	堆積土	磨石	13.1	7.3	5.0	599.9	デイサイト	S-5	50	
15	7	SI-04	堆積土	磨石	9.3	6.0	4.2	203.0	流紋岩	S-12	69	
15	8	SI-04	堆積土	石皿・台石	23.9	21.4	5.4	4015.1	デイサイト	S-6 & 7	52	
20	12	SI-06	床面	磨石片	14.5	4.7	2.7	244.4	緑色斑状凝灰岩	S-10	98	
20	13	SI-06	床面	磨石・磨石	7.1	8.0	5.6	443.0	凝灰岩	S-12	97	
21	14	SI-06	床面	凹石	28.6	9.6	5.6	1952.3	デイサイト	剥き・覆り匮乏あり、被熱あり。	S-2	86
21	15	SI-06	床面	磨石	27.3	12.5	9.3	4182.2	デイサイト	S-3	88	
21	16	SI-06	床面	磨石	24.3	10.9	8.5	2827.3	デイサイト	S-4	89	
22	4	SI-07	堆積土	石皿	19.6	18.3	3.2	1593.7	流紋岩	S-X	42	
22	5	SI-07	堆積土	磨石	11.6	9.0	5.9	866.6	デイサイト	S-X	47	
22	6	SI-07	堆積土	凹石・磨石	(14.0)	4.0	3.5	321.8	流紋岩	S-X	48	
22	7	SI-07	堆積土	磨石	16.5	4.9	3.5	445.1	流紋岩	S-X	49	
26	22	土質相異	堆積土	磨石・凹石	24.4	12.2	7.1	3000.0	デイサイト	S-4	5001	
63	4	SE-20	3	白石	(14.1)	22.8	9.6	4400.0	薄葉岩	S-4 & 12	5005, 5011	
63	5	SE-20	3	磨石	16.5	10.4	7.7	1800.0	洞穿凝灰岩	S-6	5006	
63	6	SE-20	3	磨石	21.7	8.1	6.0	1800.0	流紋岩	S-17	5009, 5013	
63	7	SE-20	3	白石	(11.4)	13.8	2.6	475.9	磨石	S-2	5003	
63	8	SE-21	5	磨石	(14.9)	7.2	5.5	858.5	流紋岩	S-11	5015	
92	1	SK-53	1	白石	(22.3)	(15.8)	8.9	3971.1	花崗岩	被熱あり	S-48	194
92	1	SK-59	2	磨石	14.8	8.3	6.9	1113.4	デイサイト	S-X	120	
92	1	SK-58	1	磨石	21.7	6.1	4.3	831.8	流紋岩	S-1	119	
93	15	SK-71	1	加工標	36.8	12.8	11.4	5900.0	デイサイト	S-002		
93	10	堆積土	白石	(14.9)	(15.6)	3.2	814.7	デイサイト	IVI-21グリッド、黒色物付着。	S-X	234	
97	25	1号河川跡	底面	磨製石片未製品	(7.4)	(15.1)	2.8	167.6	石英岩	IVI-23グリッド	S-X	246
97	26	1号河川跡	底面	磨石	(13.0)	(14.8)	6.6	7532.0	デイサイト	IVH-230グリッド	S-X	247
97	27	1号河川跡	底面	磨石	12.2	7.0	6.6	706.5	デイサイト	IVI-230グリッド、被熱あり。	S-X	252
97	28	1号河川跡	底面	磨石	17.5	8.7	5.4	986.8	デイサイト	IVH-230グリッド	S-X	248
97	29	1号河川跡	底面	磨石・磨石片	17.7	9.7	5.5	1858.5	流紋岩	IVI-230グリッド、垂熱あり。	S-X	251
97	30	1号河川跡	底面	磨石	18.3	29.8	4.7	4173.8	流紋岩	IVH-230グリッド	S-X	244
98	3	1-2号河川跡	底面	磨石	12.7	11.3	2.0	424.7	凝灰岩	IV-229グリッド	S-X	255
98	4	1-2号河川跡	底面	磨石	6.4	6.4	4.4	210.7	黄岩	IV-228グリッド	S-X	257
98	5	1-2号河川跡	底面	磨石	20.4	4.7	3.7	600.9	流紋岩	IVK-230グリッド	S-X	260
99	25	2号河川跡	地盤上	磨石	5.0	4.4	3.3	84.4	デイサイト	IVK-229グリッド、球状	S-X	299
99	26	2号河川跡	堆積土	白石	15.9	12.7	11.0	3172.5	デイサイト	S-X	270	
99	27	2号河川跡	底面	石墨	(14.2)	(12.6)	5.7	1443.2	デイサイト	IVH-229グリッド、縫付き。	S-X	254
100	9	3号河川跡	底面	磨石	13.0	6.0	5.0	5250.0	流紋岩	IVL-225グリッド	S-75	338
100	10	3号河川跡	底面	磨石	7.1	5.8	5.4	267.5	流紋岩	IVK-227グリッド	S-82	337
101	24	7号河川跡	2	磨石	12.3	8.0	5.5	788.6	流紋岩	IVS-209グリッド	S-052	
101	25	7号河川跡	底面	白石	16.5	13.0	15.0	(3000.0)	デイサイト	IVG-227グリッド、赤色跡付着。	S-15	5053
101	26	7号河川跡	2	磨石	36.4	31.4	8.3	14800.0	デイサイト	IVS-208グリッド	S-059	
100	60	V.2.24	II	磨製石片	12.3	5.5	1.7	194.8	緑色凝灰岩	S-2	55	
109	61	JVN.225	I	磨製石片	11.5	4.8	2.9	2288.0	閃綠岩	S-044		
109	62	JVN.240	III	磨製石片	(9.9)	4.0	2.8	148.8	凝灰岩	先端欠損	S-349	
109	63	JVN.226	III	磨製石片	11.3	3.7	2.6	161.0	デイサイト	S-339		
109	64	JVN.225	I	磨製石片	(12.3)	4.4	2.7	257.8	デイサイト	S-045		
109	65	SE-32	1	磨石	(13.4)	6.2	6.2	641.9	デイサイト	S-4	5019	
109	66	SE-32	1	磨石	(8.8)	4.8	4.6	297.5	デイサイト	S-2	5021	
109	67	JVN.229	III	磨製石片	13.7	6.1	4.6	506.2	流紋岩	黑色物付着	S-2	340
109	68	SE-04	4	磨石	27.1	4.7	5.2	967.0	流紋岩	S-25	224	
109	69	JVN.243	II	磨石	15.9	5.2	3.1	433.5	デイサイト	S-2	5049	
109	71	JVN.243	III	凹石	11.7	7.7	4.6	507.1	デイサイト	S-043		
109	72	V.A-246	1	凹石	8.6	6.1	4.5	341.0	デイサイト	S-052		
109	73	V.IV-230	II	凹石	(10.4)	5.4	3.9	251.6	流紋岩	S-035		
109	74	SE-34	2	磨石	13.7	5.0	4.2	440.5	デイサイト	S-022		
109	75	V.IV-235	1	石皿	19.0	13.7	6.0	1900.0	デイサイト	S-034		
110	76	JVN.217	II	白石	(14.0)	(12.5)	3.0	526.6	デイサイト	S-037		
110	77	JVN.225	I	凹石	13.5	6.3	6.3	600.3	流紋岩	S-X	346	

石製品観察表

図面番号	出土位置	層位	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	備考	取上No	整理No
21	17	SI-06	床面	石棒	31.6	11.5	9.3	5250.0	流紋岩	S-1	11
71	19	SE-32	堆積土	石伝	高22.8	12.5	14.1	2217.9	凝灰岩	S-6	12
109	70	IVI-211	II	軽石製品	9.7	7.5	5.9	258.6	軽石	S-X	341

木製品觀察表(1)

図番号	出土位置	層位	種類	木取り	樹種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時代	備考	取上No	整理No.
56	1 SE-01	堆積土	杭状	丸木		48.0	8.0	8.2	中世	鍛部加工痕	W-14	4002
56	2 SE-01	堆積土	板材	紅目		17.1	10.9	1.2	中世	切削面未加工	W-7	4001
56	3 SE-02	堆積土	圓柱	丸木		89.0	9.5	10.0	中世	鍛部・筋六加工	W-29	4024
56	4 SE-02	堆積土	圓柱	丸木		97.0	8.0	9.0	中世	鍛部・筋六加工	W-34	4030
56	5 SE-02	堆積土	圓柱	紅目		81.3	4.7	4.4	中世	角材に加工	W-34	4031
56	6 SE-02	堆積土	圓柱	紅目		85.8	4.6	4.4	中世	角材に加工	W-31 A	4026
56	7 SE-02	堆積土	桿	紅目	ヒバ	7.0	2.5	1.0	中世	丁寧に加工・使用	W-34	4032
56	8 SE-02	堆積土	桿	紅目	アヌナコ	9.5	3.1	1.3	中世	丁寧に加工	W-28	4023
57	9 SE-02	堆積土	圓柱	丸木		93.0	7.9	9.2	中世	鍛部・筋六加工	W-27	4022
57	10 SE-02	堆積土	圓柱	丸木		86.1	8.6	7.6	中世	鍛部・筋六加工	W-30	4025
57	11 SE-02	堆積土	圓柱	丸木		84.4	4.9	4.1	中世	角材に加工	W-33	4039
57	12 SE-02	堆積土	圓柱	紅目		89.4	5.1	4.1	中世	角材に加工	W-32-a	4027
57	13 SE-02	堆積土	桿	紅目	ヒバ	9.2	3.2	1.1	中世	丁寧に加工・使用	W-32-b	4028
58	14 SE-02	堆積土	板材	紅目		92.6	34.5	2.9	中世	鍛部加工痕明瞭	W-12	4014
58	15 SE-02	堆積土	板材	紅目		98.5	20.6	3.0	中世		W-11	4013
58	16 SE-02	堆積土	板材	紅目		90.4	20.0	2.7	中世	図59. 21と接合	W-13	4015
58	17 SE-02	堆積土	板材	紅目		50.2	19.2	2.2	中世		W-14	4016
58	18 SE-02	堆積土	板材	紅目		73.6	14.0	2.1	中世		W-15	4017
59	19 SE-02	堆積土	板材	紅目		91.2	18.6	3.8	中世		W-5	4006
59	20 SE-02	堆積土	板材	紅目		94.8	8.0	3.0	中世		W-10	4012
59	21 SE-02	堆積土	板材	紅目		90.4	20.6	2.4	中世	図58. 16と接合	W-4	4005
59	22 SE-02	堆積土	板材	紅目		53.5	8.0	1.8	中世		W-6 B	4008
59	23 SE-02	堆積土	板材	紅目		56.5	14.9	1.9	中世		W-6 A	4007
59	24 SE-02	堆積土	板材	紅目		90.1	11.3	2.7	中世		W-3	4004
60	25 SE-02	堆積土	板材	紅目		102.5	10.2	6.0	中世		W-16	4018
60	26 SE-02	堆積土	板材	紅目		96.6	19.2	4.4	中世		W-17	4019
60	27 SE-02	堆積土	板材	紅目		92.5	18.9	3.5	中世		W-18	4020
61	28 SE-02	堆積土	板材	紅目		82.3	14.3	0.9	中世	両面墨書き痕有・判読不能	W-9	4011
61	29 SE-02	堆積土	板材	板筋		65.8	14.7	2.1	中世		W-7	4009
61	30 SE-02	堆積土	板材	紅目		71.2	15.0	4.5	中世		W-8	4010
図番号	出土位置	層位	種類	木取り	樹種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時代	備考	取上No	整理No.
61	31 SE-02	堆積土	圓柱	木	ブナ	12.6	6.8	3.0	中世	漆器・高台内側に「二」	図-1	
図番号	出土位置	層位	種類	木取り	樹種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時代	備考	取上No	整理No.
61	32 SE-07	堆積土	圓柱	-	-	-	-	-	中世	加工痕	図版-1	
61	33 SE-03	武底	杭状	丸木		64.6	6.5	4.0	中世	鍛部加工痕	W-1	4033
61	34 SE-03	武底	杭状	丸木		45.9	5.6	4.6	中世	鍛部加工痕	W-2	4034
61	35 SE-03	武底	杭状	丸木		29.9	4.3	3.6	中世	鍛部加工痕	W-3	4035
62	1 SE-04	堆積土 4 層	板材	紅目		66.2	8.9	1.5	中世		W-3 A	4038
62	2 SE-04	堆積土 4 层	板材	紅目		43.0	13.9	1.8	中世		W-32	4044
62	3 SE-04	堆積土 4 层	板材	紅目		51.6	10.7	1.4	中世		W-1	4036
62	4 SE-04	堆積土 4 层	板材	紅目		49.4	8.9	1.4	中世		W-18	4039
62	5 SE-04	堆積土 4 层	板材	紅目		22.2	10.2	1.0	中世		W-30	4042
62	6 SE-04	堆積土 4 层	杭状	丸木	ブナ属	16.5	4.0	3.8	中世	括れ加工	W-19	4040
62	7 SE-04	堆積土 4 层	杭状	丸木	ヤガニ属	19.9	10.9	2.4	中世		W-31 A	4043
62	8 SE-04	堆積土 4 层	折断	紅目	ヒバ	34.3	5.4	0.8	中世		W-36 A	4045
62	9 SE-04	堆積土 4 层	折断	木	ヤマキ	13.2	6.8	5.4	中世	漆器・外側に朱漆で文様	図-1	4001
62	10 SE-04	堆積土 4 层	桿	木	ヤマキ	13.8	7.4	5.3	中世	漆器・外側に朱漆で文様	図-2	4002
図番号	出土位置	層位	種類	木取り	樹種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時代	備考	取上No	整理No.
63	11 SE-05	堆積土	部材	紅目		48.2	2.1	2.5	中世	彫り機の加工材?	W-15	4049
図番号	出土位置	層位	種類	木取り	樹種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時代	備考	取上No	整理No.
63	12 SE-05	堆積土	部材	木	ブナ		-	-	中世	内外面朱漆	図-1	4154
図番号	出土位置	層位	種類	木取り	樹種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時代	備考	取上No	整理No.
63	1 SE-16	堆積土	板材	紅目		49.0	9.1	1.1	中世		W-19	4050
63	2 SE-16	堆積土	板材	紅目		35.5	18.8	1.6	中世		W-1	4047
64	1 SE-20	堆積土	圓柱	丸木		79.0	8.4	7.2	中世	鍛部・筋六加工	W-83	4061
64	2 SE-20	堆積土	圓柱	丸木		77.7	10.0	9.8	中世	鍛部・筋六加工	W-86	4063
64	3 SE-20	堆積土	圓柱	丸木		81.0	4.7	4.2	中世	角材に加工後鍛部加工	W-85	4062
64	4 SE-20	堆積土	圓柱	丸木		73.6	4.6	4.1	中世	角材に加工後鍛部加工	W-82	4060
64	5 SE-20	堆積土	板材	紅目		58.7	17.1	1.6	中世		W-89 A	4064
64	6 SE-20	堆積土	板材	紅目		47.6	10.8	1.6	中世		W-6 A	4051
64	7 SE-20	堆積土	板材	紅目		40.2	8.3	1.1	中世		W-30	4052
64	8 SE-20	堆積土	板材	紅目		44.0	11.3	0.6	中世		W-33	4053
64	9 SE-20	堆積土	板材	紅目		43.9	9.3	1.1	中世		W-55	4057
64	10 SE-20	堆積土	板材	紅目		32.3	8.5	1.9	中世		W-47	4056
64	11 SE-20	堆積土	板材	紅目		27.6	8.0	1.1	中世		W-60	4058
64	12 SE-20	堆積土	板材	紅目		25.2	16.7	0.8	中世		W-68	4059
64	13 SE-20	堆積土	板材	紅目		20.6	11.3	0.6	中世		W-41 A	4055
64	14 SE-20	堆積土	板材	紅目		14.5	5.6	0.6	中世	焰板に転用	W-40	4054
65	1 SE-21	堆積土	板材	板目		86.2	16.2	5.8	中世		W-21	4066
65	2 SE-21	堆積土	曲物			27.6	28.4	11.0	中世	内面に瘤・斜のケビキ痕	曲げ材-1	整理No.

木製品観察表(2)

図 番号	出土位置	部位	種類	木取り	樹種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時代	備考	取上No	整理No.
65 3	SE-23	柱材	丸木			65.6	15.5	13.5	中世		W- 2	4068
65 4	SE-23	角材	粧目			54.0	5.7	5.6	中世		W- 3	4069
65 5	SE-24	柱材	丸木			45.3	18.0	16.0	中世		W- 1	4070
66 1	SE-25	隅柱	粧目			69.3	7.1	6.1	中世	勝穴加工	W- 34	4074
66 2	SE-25	隅柱	粧目			65.9	7.2	6.5	中世	勝穴加工	W- 5	4071
66 3	SE-25	板材	粧目			50.8	16.3	1.1	中世		W- 9 B	4072
66 4	SE-25	板材	粧目			44.0	19.7	1.1	中世		W- 20	4073
66 5	SE-26	板材	粧目			54.7	8.6	1.2	中世		W- 4	4076
66 重号	出土位置	層位	種類	木取り	樹種	口(径)(cm)	底(径)(cm)	高さ(cm)	時代	備考	取上No	整理No.
66 6	SE-26	堆積土	片口株	裸木		24.0	12.5	7.6	中世	内外面黒漆残存	W- 5	
66 重号	出土位置	層位	種類	木取り	樹種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時代	備考	取上No	整理No.
66 7	SE-26	堆積土	著?	粧目		18.9	0.9	0.4	中世		W- 6 A	4077
66 8	SE-26	堆積土	著?	粧目		18.2	0.9	0.5	中世		W- 26	4127
66 9	SE-26	堆積土	著?	粧目		12.9	0.7	0.4	中世		W- 6 B	4077
66 10	SE-26	堆積土	下駄	粧目	アスナロ	24.0	10.3	2.8	中世		W- 2	4075
67 1	SE-28	柱材	丸木			42.3	7.2	5.5	中世		W- 1	4079
67 2	SE-28	部材	丸木?			16.9	8.6	4.2	中世		W- 1 B	4080
67 3	SE-28	部材	丸木?			15.9	6.0	4.3	中世		W- 8	4082
67 4	SE-28	部材	丸木?			25.2	2.4	1.9	中世		W- 6	4081
67 5	SE-31	板材	粧目			98.9	17.6	2.6	中世		W- 22	4084
67 6	SE-31	板材	粧目			68.6	6.4	1.5	中世		W- 55	4087
67 7	SE-31	板材	粧目			41.7	3.8	1.2	中世		W- 4	4083
67 8	SE-31	板材	粧目			40.6	4.1	1.4	中世		W- 4 A	4085
67 9	SE-31	板材	粧目			35.9	6.8	1.2	中世		W- 50	4086
68 1	SE-32	画面	隅柱	丸木	七尺	111.0	7.5	7.5	中世	勝部・勝六加工	W- 76	4118
68 2	SE-32	画面	隅柱	丸木	七尺	110.2	8.9	8.5	中世	勝部・勝六加工	W- 79	4120
68 3	SE-32	画面	隅柱	丸木	七尺	108.9	9.0	8.9	中世	勝部・勝六加工	W- 82	4122
68 4	SE-32	画面	隅柱	丸木	アスナロ	82.6	8.2	6.8	中世	勝部・勝六加工	W- 70	
68 5	SE-32	横棒	丸木			98.5	7.4	6.7	中世	勝部加工	W- 36	4111
68 6	SE-32	横棒	丸木			94.5	6.0	4.4	中世	勝部加工	W- 60	4116
68 7	SE-32	横棒	丸木			76.8	8.9	8.1	中世	勝部・勝六加工	W- 7	4103
68 8	SE-32	横棒	丸木			69.8	7.2	6.5	中世	勝部・勝六加工	W- 17	4106
68 9	SE-32	横棒	丸木			63.2	9.2	7.0	中世	勝部加工・横棒に転用	W- 35	4110
68 10	SE-32	横棒	丸木			88.1	4.4	2.8	中世	勝部加工	W- 80	4121
68 11	SE-32	横棒	丸木			76.4	6.0	4.3	中世	勝部加工	W- 77	4119
70 12	SE-32	板材	粧目	七尺		107.8	20.4	3.0	中世		W- 55	4114
70 13	SE-32	板材	粧目	七尺		96.4	22.8	2.6	中世		W- 50	4113
70 14	SE-32	板材	粧目	七尺		79.9	10.2	0.8	中世		W- 49	4112
70 15	SE-32	板材	粧目	七尺		92.5	13.6	1.8	中世		W- 21	4107
70 16	SE-32	板材	粧目	七尺		85.1	9.8	1.3	中世		W- 57	4115
70 17	SE-32	板材	粧目	七尺		49.7	9.9	1.5	中世		W- 15	4105
70 18	SE-32	板材	粧目	七尺		62.9	11.0	3.2	中世	表面にキズ?	W- 30	4108
72 1	SE-33	隅柱	丸木			74.4	4.6	4.0	中世		W- 11	4090
72 2	SE-33	横棒	角材			65.0	4.4	3.2	中世		W- 9	4089
72 3	SE-33	板材	粧目			93.5	14.9	1.3	中世		W- 8	4088
72 4	SE-33	板材	粧目			94.3	11.9	1.0	中世		W- 28 A	4091
72 5	SE-33	板材	粧目			60.3	11.4	1.2	中世		W- 50	4094
72 6	SE-33	板材	粧目			45.6	14.8	1.0	中世		W- 28 C	4092
72 7	SE-33	板材	粧目			29.3	6.1	0.6	中世		W- 50	4093
72 8	SE-37	隅柱	丸木			59.0	9.9	8.7	中世		W- 1	4095
72 9	SE-37	隅柱	丸木			47.8	8.6	8.0	中世		W- 9	4099
72 10	SE-37	隅柱	丸木			23.4	8.9	8.6	中世		W- 7	4097
72 11	SE-37	横棒	角材			78.0	5.4	4.7	中世		W- 11	4101
72 12	SE-37	横棒	角材			93.9	4.3	4.2	中世		W- 8	4098
72 13	SE-37	横棒	粧目			45.8	2.8	2.8	中世		W- 20	4102
72 14	SE-37	横棒	角材			40.4	3.8	2.4	中世		W- 10	4100
98 6	第1号河川井	堆積土	板	粧目	-	30.5	21	1.7	中世	曲物底板		

須恵器觀察表

図	番号	出土位置	グリッド	層位	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	備考
110	1	-	IV S - 205	I層	須恵器	壺	-	-	-	
110	2	-	IV N - 244	II層	須恵器	壺	-	-	-	
110	3	第2号河川跡	IV K - 229	堆積土	須恵器	壺	-	-	-	
110	4	-	V A - 257	II層	須恵器	壺	-	-	-	

陶磁器觀察表

図	番号	出土位置	グリッド	層位	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	備考
33	1	第46号土坑	-	堆積土	磁器	青磁壺	-	-	-	中国産 14~15C
33	2	-	IV E - 218	II層	陶器	壺・平碗	-	-	-	瀬戸産 14~15C
33	3	-	IV I - 208	I層	磁器	青磁碗	-	-	-	中国産 14~15C
33	4	第36号土坑	IV I - 232	堆積土	磁器	青磁盤	-	-	-	中国産 14~15C
33	5	-	IV I - 222	II層	陶器	振り鉢	-	-	-	IV期
33	6	第5号土坑	-	堆積土	陶器	機	-	-	-	IV期
33	7	用水路(現代)	IV K - 209	堆積土	陶器	振り鉢	-	-	-	在地産?
34	8	第4号井戸跡	IV M - 227	4層	陶器	振り鉢	-	-	-	IV期
34	9	-	IV N - 220	1層	陶器	振り鉢	-	-	-	IV期
34	10	-	IV M - 218	I層	陶器	振り鉢	-	-	-	IV期
34	11	-	IV M - 218	I層	陶器	振り鉢	-	-	-	IV期・2次焼成
34	12	第2号井戸跡	IV J - 207	I層	磁器	青磁碗	-	-	-	2次焼成
34	13	第1号溝跡	IV J - 208	I層	磁器	青磁碗	-	-	-	中国産 15C
34	14	-	IV Q - 243	II層	磁器	青磁花瓶	-	-	-	中国産
34	15	第1号河川跡	IV J - 231	堆積土	陶器	扇子	-	-	-	瀬戸産 15C?
34	16	第1号河川跡	IV J - 231	堆積土	磁器	白磁碗	-	-	-	中国産 14~15C
34	17	第2号河川跡	IV L - 228	堆積土	磁器	青磁碗	-	-	-	中国産 14~15C
34	18	-	IV R - 252	I層	磁器	青磁	-	-	-	中国産 14~15C
34	19	-	IV J - 210	II層	磁器	青磁碗	-	-	-	中国産
34	20	-	IV I - 217	I層	磁器	青磁碗	-	-	-	中国産 15C
34	21	-	IV H - 211	II層	磁器	青磁碗	-	-	-	中国産 14~15C
34	22	-	IV O - 227	I層	磁器	青磁盤	-	-	-	中国産 14~15C

古銭觀察表

図	番号	通鑄名	グリッド	層位	銘	初鋤年・年号	鋤造国	直径(cm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
73	1	第60号土坑	IV H - 214	底面	天保通寶	A D 1017	北宋	2.52	1.1	3.0	3点接合
73	2	第66号土坑	IV H - 214	底面	大觀通寶	A D 1107	北宋	2.16	1.3	3.0	3点接合
73	3	第66号土坑	IV H - 214	底面	崇寧通寶	A D 1048	朝	2.52	1.0	3.0	3点接合
92	1	第52号土坑	IV O - 206	堆積土	治平元寶	A D 1064	北宋	2.36	1.2	2.0	薄板体
110	1	-	IV I - 202	I層	寛永通寶	A D 021	唐	2.45	0.9	2.0	銅鏡
110	2	-	IV L - 213	I層	元祐通寶	A D 1086	北宋	2.20	1.2	1.8	行書体
110	3	-	IV J - 217	豆層	寛永通寶	A D 1036	日本	2.44	1.6	4.2	吉備永
110	4	-	IV D - 241	I層	寛永通寶	A D 1036	日本	2.39	1.1	2.3	吉備永
110	5	-	IV B - 251	I層	寛永通寶	A D 1036	日本	2.36	0.9	2.0	吉備永
110	6	-	IV T - 230	II層	寛永通寶	A D 1036	日本	2.41	0.9	2.1	吉備永
110	7	-	IV L - 218	I層	寛永通寶	A D 1067	日本	2.24	0.5	1.0	新吉備
110	8	-	IV L - 225	II層	寛永通寶	A D 1067	日本	2.51	1.0	2.5	文鏡
110	9	-	IV J - 217	II層	寛永通寶	A D 1067	日本	2.31	1.5	2.2	新吉備
110	10	-	V A - 249	I層	寛永通寶	A D 1067	日本	2.30	1.1	2.2	新吉備
110	11	-	IV S - 253	I層	文久元寶	A D 1063	日本	2.54	0.6	2.7	銅鏡
110	12	-	IV P - 202	I層	二鈔	明治14年	日本	3.20	2.2	13.2	銅鏡

引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1976 黒石市牡丹平南遺跡・浅瀬石遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第26集
- 青森県教育委員会 1987 境間館遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第102集
- 青森県教育委員会 1990 中崎館遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第129集
- 青森県教育委員会 1993 野脇遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第149集
- 青森県教育委員会 1993 高野川(2)遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第153集
- 青森県教育委員会 1995 高野川(3)遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第179集
- 青森県教育委員会 1999 山下遺跡・上野尻遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第258集
- 青森県教育委員会 2000 山下遺跡II・米山(2)遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第274集
- 青森県教育委員会 2003 宮田館遺跡III・米山(2)遺跡II 青森県埋蔵文化財調査報告書第344集
- 青森県教育委員会 2004 宮田館遺跡IV 青森県埋蔵文化財調査報告書第365集
- 青森県教育委員会 2005 米山(2)遺跡III 青森県埋蔵文化財調査報告書第391集
- 八戸市教育委員会 1980 史跡根城跡発掘調査報告書II 八戸市埋蔵文化財調査報告書第2集
- 八戸市教育委員会 1983 史跡根城跡発掘調査報告書V 八戸市埋蔵文化財調査報告書第11集
- 八戸市教育委員会 1983 史跡根城跡発掘調査報告書VI 八戸市埋蔵文化財調査報告書第12集
- 八戸市教育委員会 1985 史跡根城跡発掘調査報告書VII 八戸市埋蔵文化財調査報告書第14集
- 八戸市教育委員会 1986 史跡根城跡発掘調査報告書VIII 八戸市埋蔵文化財調査報告書第16集
- 八戸市教育委員会 1987 史跡根城跡発掘調査報告書IX 八戸市埋蔵文化財調査報告書第18集
- 八戸市教育委員会 1988 史跡根城跡発掘調査報告書X 八戸市埋蔵文化財調査報告書第25集
- 八戸市教育委員会 1993 根城 八戸市埋蔵文化財調査報告書第54集
- 秋田県教育委員会 2000 洲崎遺跡 秋田県文化財調査報告書第303集
- 東北中世考古学会編 2001 堀立と竪穴 中世遺構論の課題 高志書院
- 網野 善彦 2001 中世民衆の生業と技術 東京大学出版会
- 宇部 則保 2005 「本州北縁地域の蝦夷集落と土器」 第31回蝦夷研究会資料
- 葛西 功 2002 再葬土器棺墓の研究- 繩文時代の洗骨葬- 「再葬土器棺墓の研究」刊行会
- 狩野 敏次 2004 ものと人間の文化史 117 かまど 法政大学出版会
- 須藤 隆 1998 東北日本先史時代文化変化・社会変動の研究
- 鐘方 正樹 2003 井戸の考古学 ものが語る歴史シリーズ⑧ 同成社
- 永井 久美男 1996 日本出土銭総覧 兵庫埋蔵銭調査会



調査区から望む東岳 (W→)



作業風景



作業風景

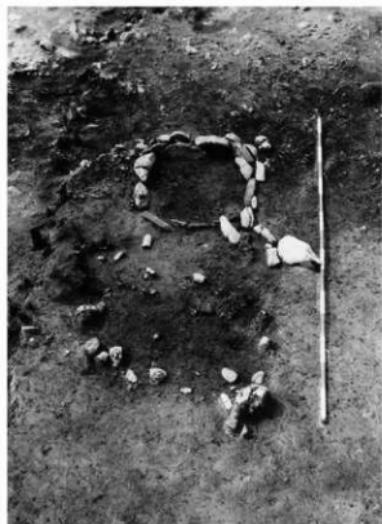


基本層序・IV T-235 (W→)



基本層序・R-235 (W→)

写真 1 調査区・基本層序等



第1号竪穴住居跡石囲炉検出状況 (S E →)



第1号竪穴住居跡遺物出土状況 (S E →)



第1号竪穴住居跡遺物出土状況 (W →)



第2号竪穴住居跡セクション (E →)



第2号竪穴住居跡遺物出土状況 (S W →)



第2号竪穴住居跡遺物出土状況 (E →)



第2号竪穴住居跡遺物出土状況 (E →)

写真2 竪穴住居跡 (1)



第3号竪穴住居跡セクション (N →)



第3号竪穴住居跡完掘 (S →)



第3号竪穴住居跡石囲炉セクション (S →)



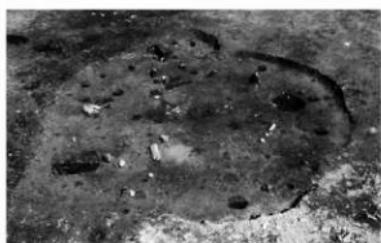
第3号竪穴住居跡石囲炉完掘 (S →)



第4号竪穴住居跡セクション (S →)



第4号竪穴住居跡完掘 (SW →)



第4号竪穴住居跡遺物出土状況 (S →)



第4号竪穴住居跡遺物出土状況 (S →)

写真3 竪穴住居跡 (2)



第5号竪穴住居跡炭化材検出状況 (E→)



第5号竪穴住居跡セクション (S→)



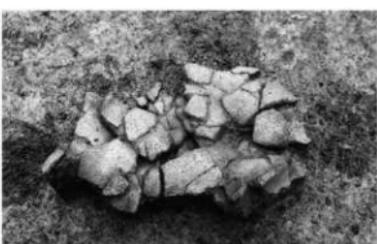
第5号竪穴住居跡完掘 (S→)



第5号竪穴住居跡石囲炉完掘 (SE→)



第6号竪穴住居跡遺物出土状況 (S→)



第6号竪穴住居跡遺物出土状況 (E→)



第6号竪穴住居跡完掘 (S→)



第6号竪穴住居跡土器片敷石囲炉完掘 (S→)

写真4 竪穴住居跡 (3)



第7号竪穴住居跡遺物出土状況 (S →)



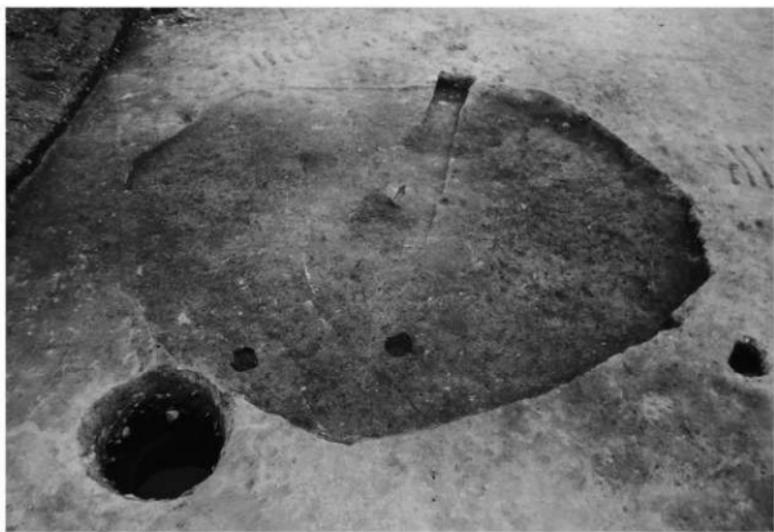
第7号竪穴住居跡完掘 (W →)



第8号竪穴住居跡セクション (S →)



第8号竪穴住居跡遺物出土状況 (S →)



第8号竪穴住居跡完掘 (S →)

写真5 竪穴住居跡 (4)



第1号土器棺墓遺物出土状況 (E→)



第1号土器棺墓セクション (S→)



第1号土器棺墓遺物出土状況 (S→)

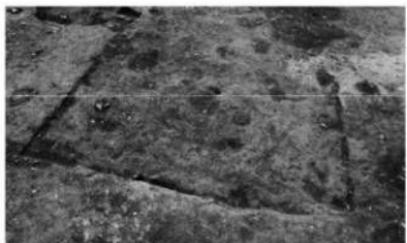


第1号土器棺墓遺物出土状況 (E→)



第1号土器棺墓完掘 (S→)

写真6 土器棺墓



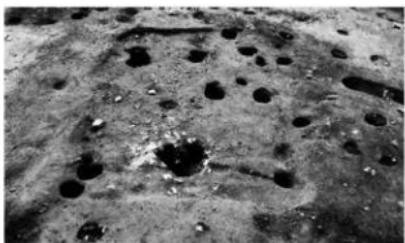
第1号竪穴遺構横断面状況 (E→)



第1号竪穴遺構横断面状況 (N→)



第2号竪穴遺構セクション (S→)



第2号竪穴遺構横断面状況 (E→)



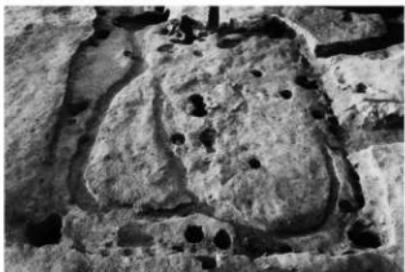
第3号竪穴遺構セクション (SW→)



第3号竪穴遺構横断面状況 (S→)

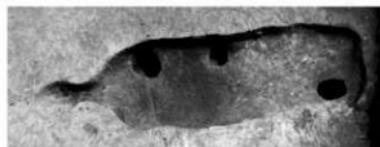


第4号竪穴遺構セクション (SW→)



第4号竪穴遺構横断面状況 (S→)

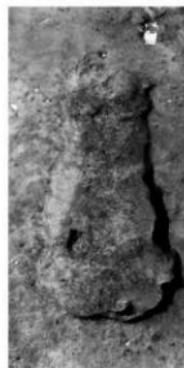
写真7 竪穴遺構



第1号カマド状遺構完掘 (N→)



第5号カマド状遺構完掘 (N→)



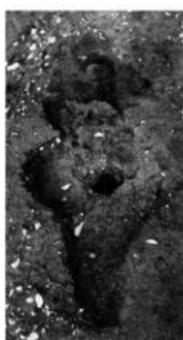
第3号カマド状遺構完掘 (NW→)



第4号カマド状遺構完掘 (W→)



第7・8号カマド状遺構完掘 (E→)



第6号カマド状遺構出土状況 (W→)



第9号カマド状遺構セクション (N→)



第9号カマド状遺構完掘 (S→)

写真8 カマド状遺構 (1)

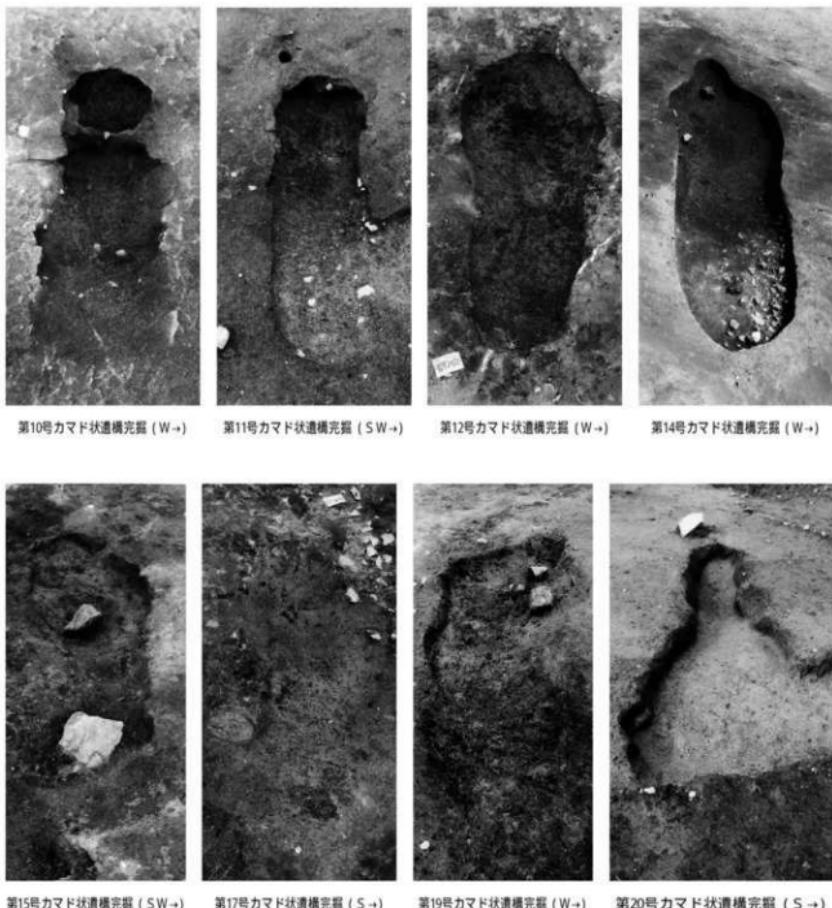


写真9 カマド状遺構 (2)

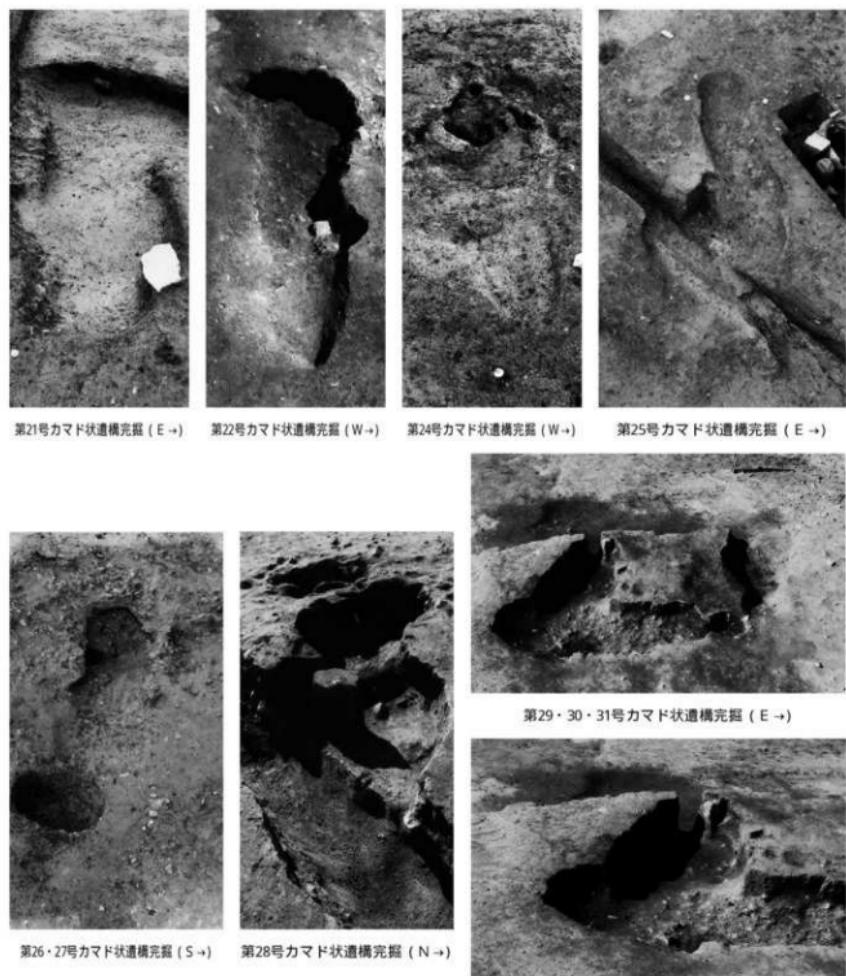


写真10 カマド状遺構 (3)



第31号カマド状遺構完掘 (W→)



第32号カマド状遺構完掘 (E→)



第33号カマド状遺構完掘 (W→)



第35号カマド状遺構完掘 (W→)



第36号カマド状遺構完掘 (W→)



第35・36号カマド状遺構完掘 (E→)



第37号カマド状遺構完掘 (N→)

写真11 カマド状遺構 (4)



第38号カマド状遺構燃焼部完掘 (S→)



第39号カマド状遺構焼成化材取出状況 (N→)



第40号カマド状遺構完掘 (N→)



第41号カマド状遺構セクション (N E→)



第42号カマド状遺構完掘 (E→)

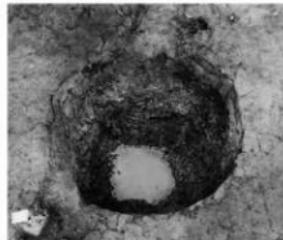


第43号カマド状遺構セクション (S→)



第44号カマド状遺構完掘 (N→)

写真12 カマド状遺構 (5)



第1号井戸跡完掘 (S→)



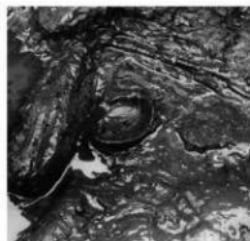
第2号井戸跡井戸側検出状況 (N→)



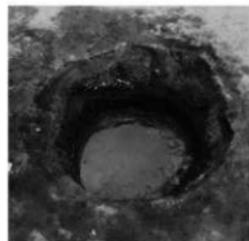
第3号井戸跡完掘 (W→)



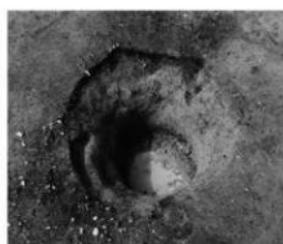
第4号井戸跡セクション (SE→)



第4号井戸跡遺物出土状況 (S→)



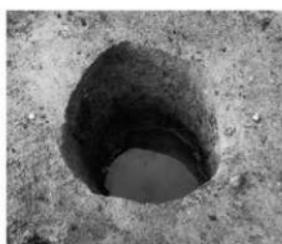
第4号井戸跡完掘 (S→)



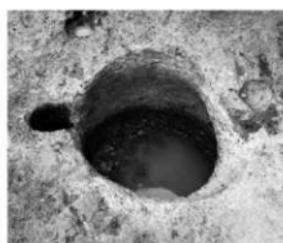
第5号井戸跡完掘 (E→)



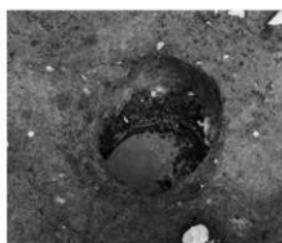
第6号井戸跡完掘 (SE→)



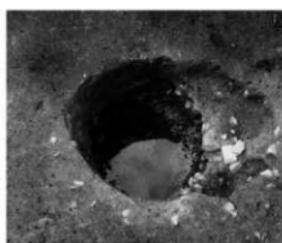
第7号井戸跡完掘 (S→)



第8号井戸跡完掘 (S→)



第10号井戸跡完掘 (SE→)

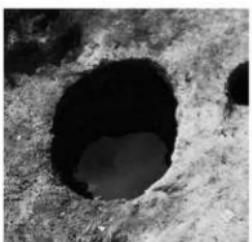


第11号井戸跡完掘 (NE→)

写真13 井戸跡 (1)



第12号井戸跡完掘 (S→)



第13号井戸跡完掘 (E→)



第2・15・16号井戸跡完掘 (S→)



第16号井戸跡完掘 (S→)



第17号井戸跡セクション (E→)



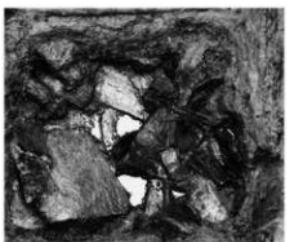
第18号井戸跡完掘 (S→)



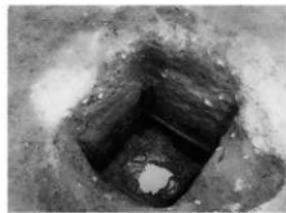
第19号井戸跡完掘 (W→)



第20号井戸跡遺物出土状況 (E→)



第20号井戸跡遺物出土状況 (S→)



第20号井戸跡井戸枠検出状況 (S→)

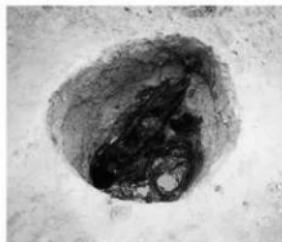


第20号井戸跡井戸枠検出状況 (E→)

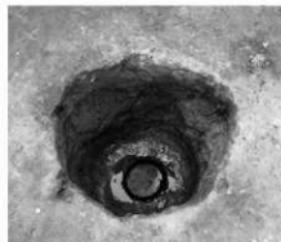


第20号井戸跡掘り方完掘 (S→)

写真14 井戸跡 (2)



第21号井戸跡遺物出土状況 (S →)



第21号井戸跡完掘 (S →)



第22号井戸跡木杭セクション (SW →)



第23号井戸跡セクション (W →)



第23号井戸跡遺物出土状況 (S →)



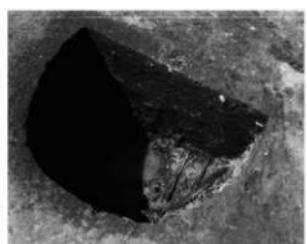
第23号井戸跡完掘 (NW →)



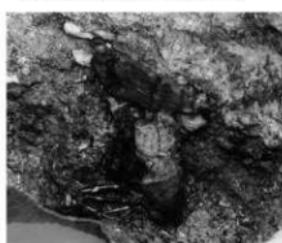
第25号井戸跡遺物出土状況 (S →)



第25号井戸跡完掘 (E →)



第26号井戸跡セクション (E →)



第26号井戸跡遺物出土状況 (N →)

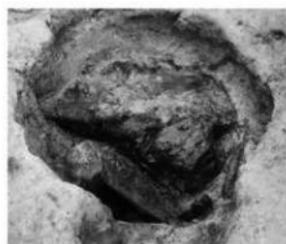


第26号井戸跡遺物出土状況 (E →)



第26号井戸跡掘り方完掘 (E →)

写真15 井戸跡 (3)



第28号井戸跡遺物出土状況 (E→)



第29号井戸跡完掘 (S→)



第30号井戸跡完掘 (E→)



第31号井戸跡遺物出土状況 (S→)



第32号井戸跡掘り方完掘 (S→)



第32号井戸跡井戸側検出状況 (N→)



第32号井戸跡遺物出土状況 (N→)



第32号井戸跡石仏出土状況 (S→)



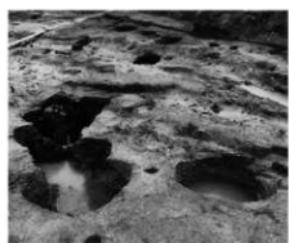
第32号井戸跡2枚目側板 (N→)



第32号井戸跡3枚目側板 (N→)

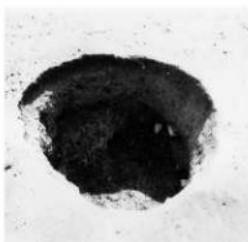


第33号井戸跡遺物出土状況 (N→)



第32・33号井戸跡完掘 (E→)

写真16 井戸跡 (4)



第34号井戸跡完掘 (N→)



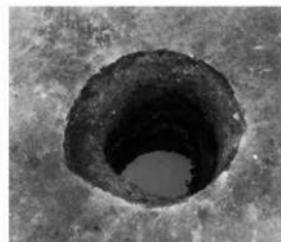
第35号井戸跡完掘 (N→)



第36号井戸跡完掘 (S→)



第37号井戸跡井戸枠棟出状況 (E→)



第38号井戸跡完掘 (S→)



第39号井戸跡完掘 (S→)



第42号井戸跡完掘 (N→)



第41号井戸跡遺物出土状況 (E→)



第1号中世墓遺物 (SW→)



第1号中世墓 (SW→)



第1号集石遺構 (N→)



第2号集石遺構 (W→)

写真17 井戸跡 (5)・中世墓・集石遺構

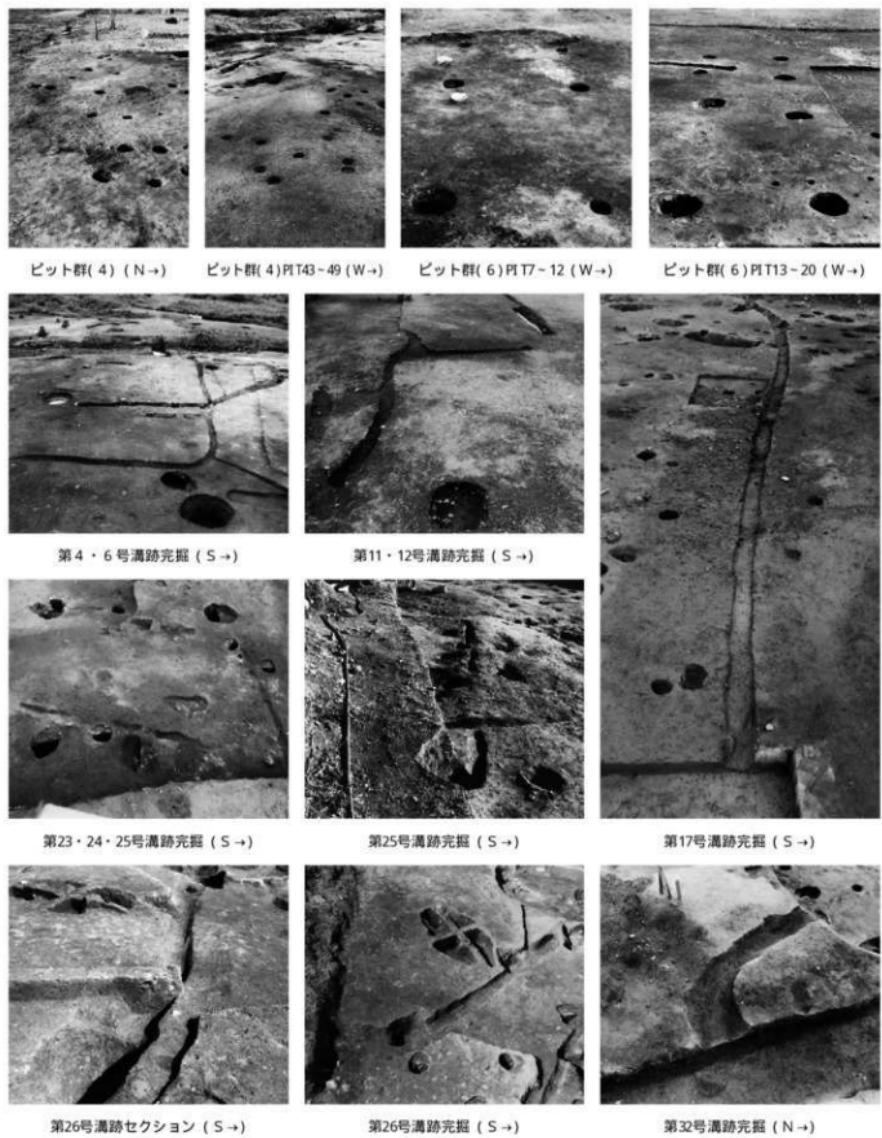


写真18 ピット群・溝跡

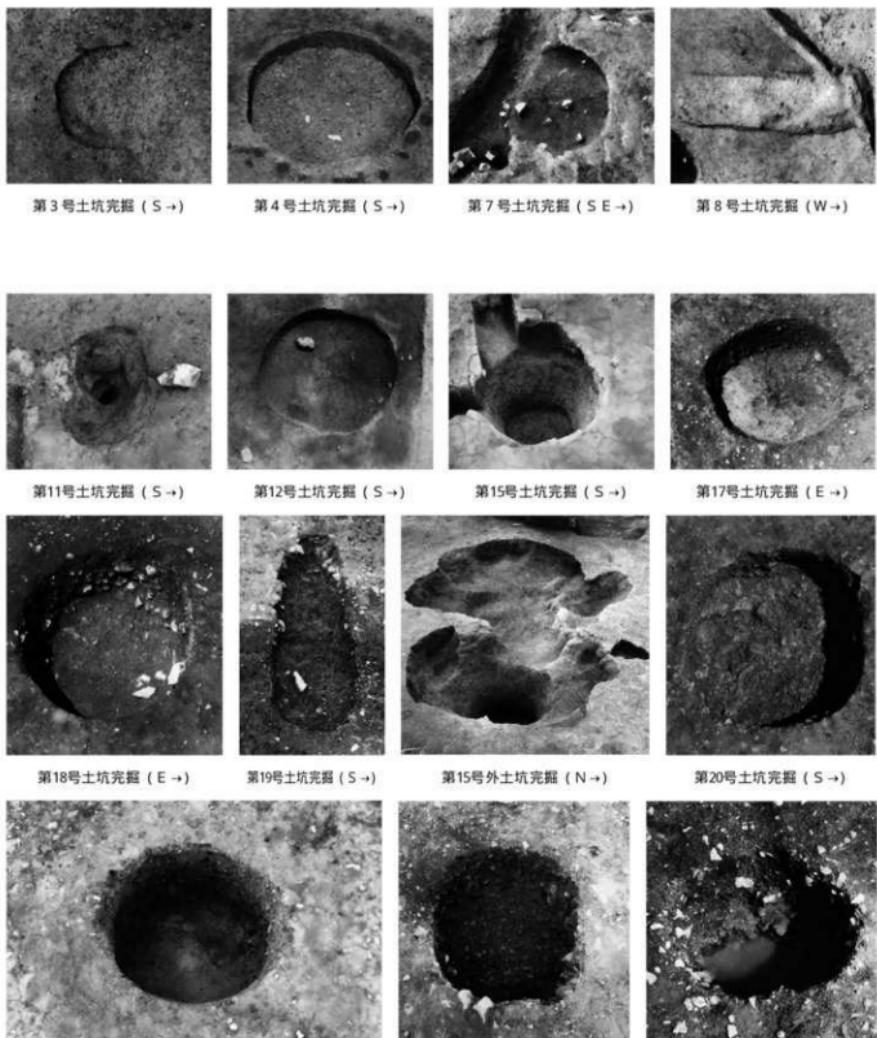


写真19 土坑 (1)

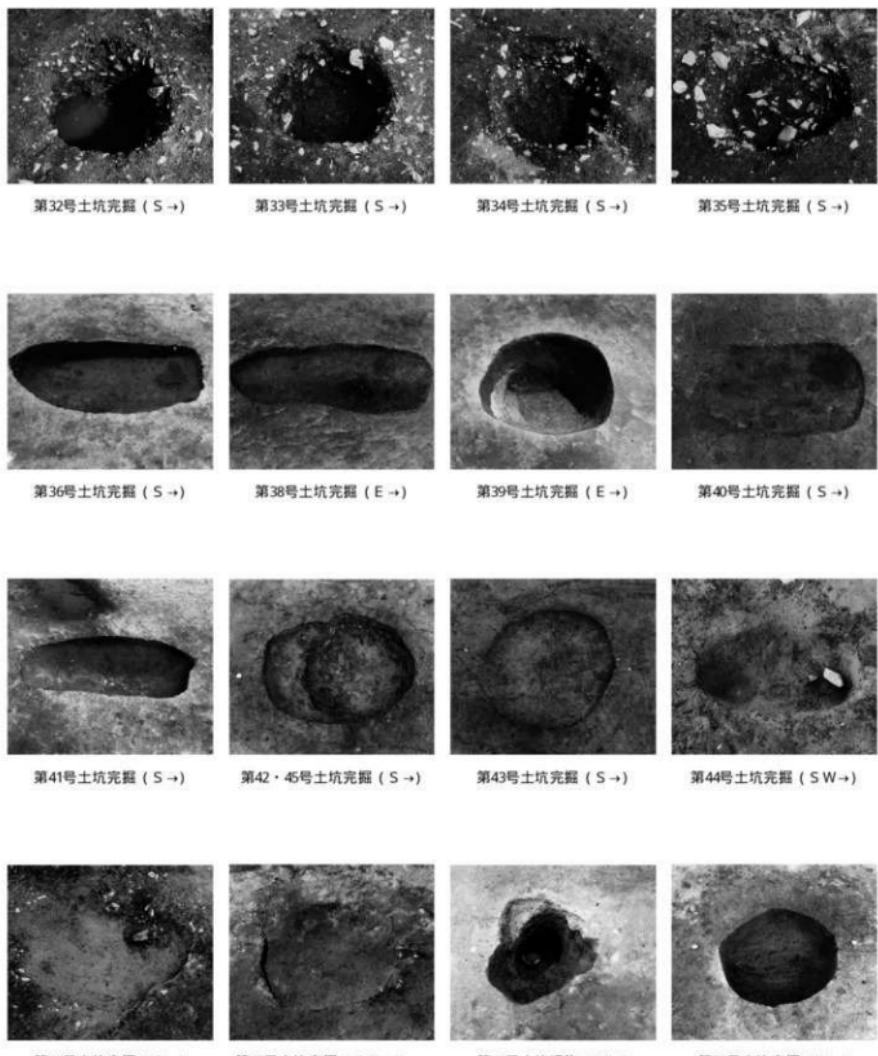
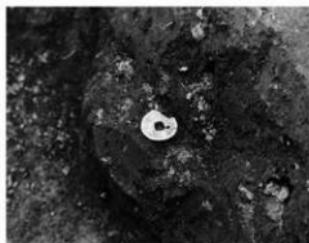


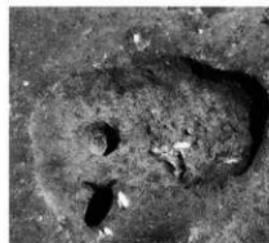
写真20 土坑(2)



第51号土坑遗物 (W→)



第52号土坑遗物 (SW→)



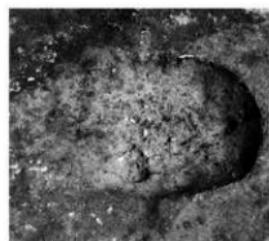
第52号土坑完掘 (W→)



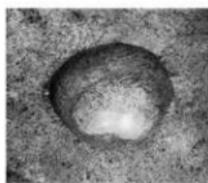
第53号土坑土层 (SW→)



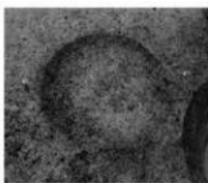
第53号土坑遗物 (SW→)



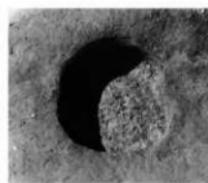
第53号土坑完掘 (W→)



第54号土坑完掘 (SW→)



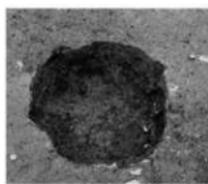
第55号土坑完掘 (SW→)



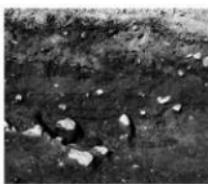
第57号土坑完掘 (E→)



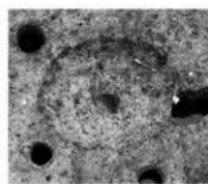
第58号土坑遗物 (N→)



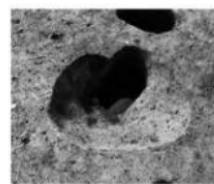
第58号土坑完掘 (N→)



第60号土坑土层 (S→)



第61号土坑完掘 (S→)



第62号土坑土层 (E→)

写真21 土坑 (3)

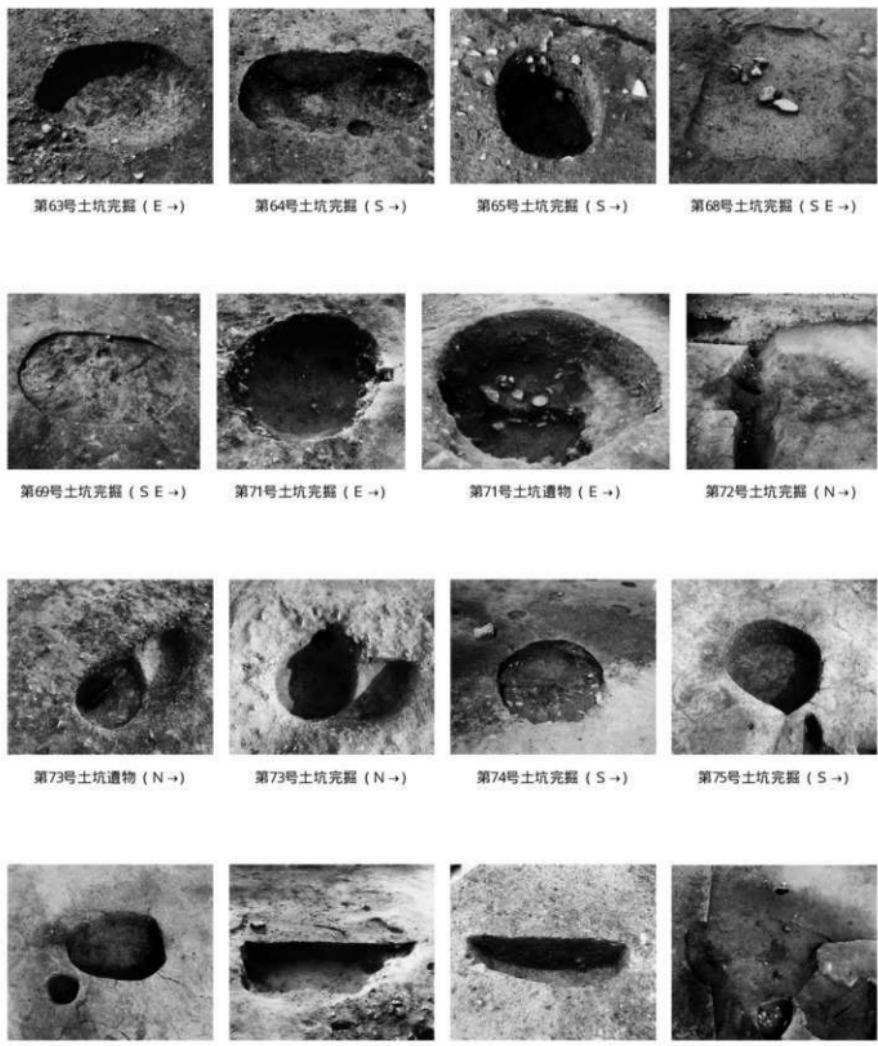
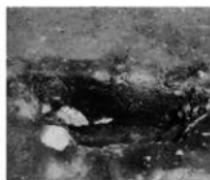
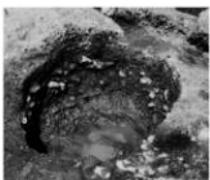


写真22 土坑 (4)



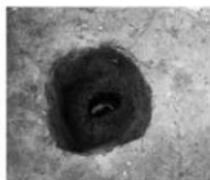
第84号土坑土層 (S →)



第85号土坑完掘 (S →)



第87号土坑土層 (E →)



第90号土坑完掘 (E →)



第91号土坑完掘 (E →)



第95号土坑完掘 (W →)



作業風景

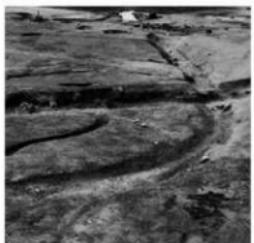


作業風景

写真23 土坑 (5)・作業風景



第1号河川跡セクション (W→)



第1号河川跡完掘 (NE→)



第1号河川跡遺物 (S→)



第3号河川跡遺物 (W→)



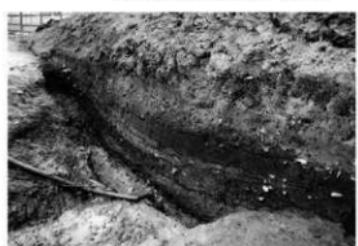
第1号河川跡遺物 (SE→)



第5号河川跡セクション (W→)



第5・6号河川跡セク (SW→)



第7号河川跡セクション (E→)

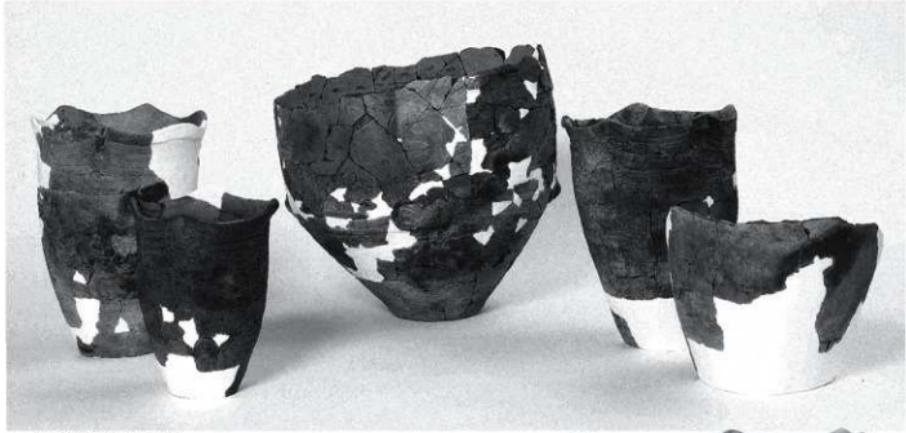


第7号河川跡遺物 (E→)



第7号河川跡完掘 (NE→)

写真24 河川跡



土坑墓SK70出土土器

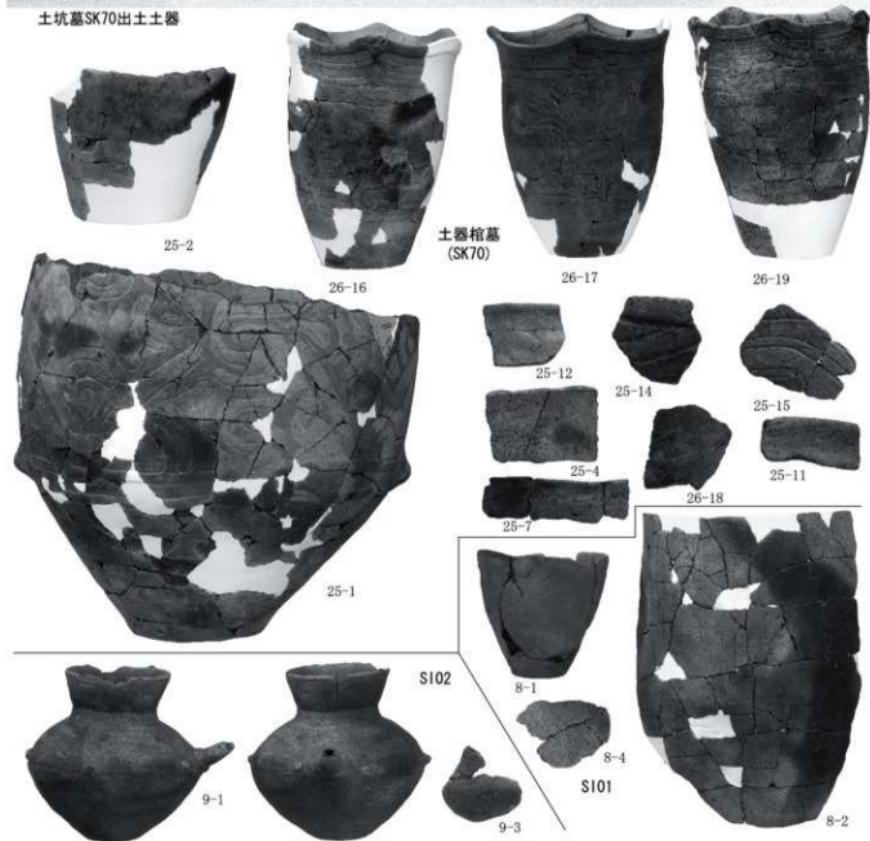


写真25 繩文土器（1）